

第二回館山市議会議定例會議錄（第二号）

一、昭和五十四年六月二十日（水曜日）午前十時

一、館山市役所議場

一、出席議員 二十九名

一番 神田 守隆	二番 石井 謀
三番 網島 憲治	四番 横溝 功
五番 福原 勳	六番 鈴木 活龍
七番 古賀 礼四郎	八番 石井 昌治
九番 松下 正己	一〇番 安戸 寿夫
十一番 林 豊	一二番 栗原 一雄
一三番 近藤 好雄	一四番 渡辺 昭夫
一五番 伊藤 幸太郎	一六番 押元 稔
一七番 黒川 平治	一八番 流山 源次郎
二〇番 石井 武敏	二一番 吉田 勇治郎
二二番 藤田 益治	二三番 菊井 敏博
二四番 和田 一郎	二五番 五十嵐 昇
二六番 伊賀 多朗	二七番 石井 正
二八番 安沢 徳順	二九番 安西 益男
三〇番 山口 康	

一、欠席議員 一名

一九番 石井 輝久

一、出席説明員

第一号より選挙管理委員会委員長、選挙管理委員会事務局書記長、監査委員、監査事務局長、農業委員会会長、農業委員会事務局長を除く。

一、出席事務局職員

第一号に同じ

一、議事日程（第二号）

昭和五十四年六月二十日午前十時開議

日程第一 行政一般通告質問

開

議 午前十時一分開議

○議長（石井 正君） 本日の出席議員数二十八名、これより第二回市議会定例会第二日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事はお手もとに配付の日程表により行います。

行政一般通告質問

○議長（石井 正君） 日程第一、これより通告による行政一般質問を行います。

締め切り日の六月十六日正午までに提出のありました議員、要旨及びその順序は、お手もとに配付のとおりであります。

これより順次質問を行います。

この際、申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり、他に関連質問等の発言もあろうかと思いますが、本日は通告者ののみいたします。

発言の方法は、最初の発言を二十分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて三十分以内といたします。

これより順次発言を願います。

一番議員神田守隆君。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番(神田守隆君) 初めに私は、これまで二期八年間にわたり市政の革新、住民福祉の充実のために奮闘されてこられた渡辺軍治郎前議員の後を引き継いで、この場に立つものであります。

さて、私の質問の第一は、宴会政治の追放ということについてであります。

私は、初議会の終了後に市長の招待で宴席があるとの話を聞き驚きました。どういう会であつたにしろ、市長招待で議員の皆さんにお祝いがしたいからと宴席を設けるなどということはよくないというふうに考えます。そうした場で、市政についての話が進められるということに強い危惧の念を持つのが市民の感情であります。

そこで、質問をいたします。五月九日初議会の終了後、市長は議員を料理店に招待されたが、これは公費でなされたものか。

次に、福祉施策に対する市長の姿勢を伺います。

老人福祉センターの民間委託の目的とするところはなんですか。地方自治法二百四十四条の二第三項では公の施設の管理の委託について定めています。すなわち「普通公共団体は、公の施設の設置の目的を効果的に達成するため必要があると認めるときは、条例の定めるところにより、その管理を公共団体又は公共の団体に委託することができる。」としています。

ここで、「公の施設の設置の目的を効果的に達成する」というのは、住民がより充実したサービスを受けて、福祉をより増進させるという意味と解されます。

館山市老人福祉センターの設置及び管理に関する条例では、その目的を「老人に対して各種の相談に応ずるとともに、健康の増

進、教養の向上及びレクリエーションのための便宜を総合的に供与し、もつて福祉の増進を図る」とうたつています。

民間委託をするというのなら、当然にもこうした目的に沿つて、より充実したサービスが期待できるということであなければなりません。単なる採算制ということでは自治法の趣旨に反することになるので、この点をはつきりさせていたいただきたいと考えます。

次に、寝たきり老人や障害者のための移動入浴車についてです。寝たきり老人はもう何年も湯に入つたことがない、湯に入りたいという痛切な願いを持っています。

現に、社会福祉協議会の老人等現況調査並びにボランティア活動のニード調査四月二十日付によつても、二十五人中六人が、すなわち二四％の方が入浴を希望しています。福祉事務所の調査では寝たきり老人九十九名、身障者二十二名がいるわけですから、これらの方に全員にあたれば、かなり希望のあることが推定できます。

近隣の市でも、たとえば木更津や鴨川でもすでに実施されているし、富津市でも購入計画を持っていると聞きます。実施しているところではどこでも大変喜ばれていると聞きます。市として検討しているようですが、福祉の充実を図っていくということと移動入浴車をぜひ購入していただきたいと考えますがどうか。

次に、お年寄りの老人祝金についてであります。

お隣の丸山町では八十五歳以上のお年寄りに対してではありますが、今年から五千元であつた祝金を七千元に上げるといふことです。当市では五千元であつたものを三千元相当の品物に減額したという経緯があるわけですから、とりあえずもとに戻すべきで

あると思うがどうか。市長のお年寄りに対する気持を示していた
だきたいと考えますが、市長の考えを聞かせてください。

幼稚園での給食の実施についてであります。

お母さん方から子供の弁当についていつも苦勞をするという話を
聞きます。子供ですから好き嫌いの大きいし、また友達と比べ
て、どここのだれだれは何の弁当だったと、ぼくにもこの弁当
をつくってくれというようなわけで偏食がますます助長するわけ
です。こうした子供の言ひになりになるという点では、親御さんの
責任もあると言わなければなりません。現にこの近隣の町村で
幼稚園でも給食を実施するという例がふえてきています。

偏食のない丈夫なからだをつくるというのは、幼少期にあつ
ては重要な教育内容であります。館山市でもこうした趣旨から早
期に実施していただきたいと考えますがどうか。

次に、保育園の保育料についてであります。

保育園の保育料は四月から値上げされているわけですが、家計
を圧迫することになるとは思わないか。また国の基準に連動させ
ていくという考え方なのか、そこらの点を明らかにしていただき
たい。

第三に、中学校の統合問題についてであります。

通学費の負担は文部省の六キロメートル以遠、補助は半額とい
うことにとらわれることなく、より積極的な施策が必要だと考え
ます。遠方から通学することを統合で余儀なくされ、それ自体大
きな負担であるのに通学費の負担までするというのは大変な負担
であります。公平の原則からいっても、せめて通学費は全額市で
負担すべきと考えますがどうか。

次に、一二七号バイパス路線の問題についてであります。

一二七号館山バイパスの計画については廃止になったという話
を聞いておりますが、事実はどうなのか。この点についてお伺い
いたします。

以上、私の通告質問を終わります。

(市長半沢良一君登壇)

○市長(半沢良一君) 神田議員の御質問にお答えをいたします。

大きな第一点でございますが、このことにつきましては、今回
新たに選ばれました議員各位の御当選をお祝いし、これから四年
間にわたつていろいろ議員活動を通じて御苦勞なさる。そういう
ことに対しまして感謝し、また市政に対して御協力をお願いした
いという意味で、初議会にあたりましてささやかな宴会を催した
ものでございます。費用につきましては公費でまかなつておりま
す。

大きな第二点、福祉施策に対する市長の姿勢についてというこ
とでございますが、第一点は老人福祉センターの民間委託の目的
は何かということでございますが、御指摘のように老人福祉セン
ターの設置目的をより効果的に達成するために民間委託を考へて
きたわけでございますが、いろいろ検討の問題点もございしますの
で、昭和五十四年度も引き続き検討を続けたいと、そういうふう
に考へているわけでございます。

小さな第二点、寝たきり老人や障害者のための移動入浴車を購
入してもらいたいというお話でございますが、御指摘の移動入浴
車につきましては、いままです検討の結果、非常に問題点がたくさ
んございます。

たとえば、事故発生に対する処置及び責任、それから事前にお医者さんの診断が必要でございますけれども、診断時と入浴時のずれに対する判断といったような、それから健康体の人ではございませんので、作業従事者が専門的知識を有する人が必要であるといったようなこと。いろいろ問題がございますので、現在の段階ではまだ購入まで踏み切れないでいる段階でございます。

第三点は、敬老祝金の問題でございますが、敬老祝金は条例に決められておりますとおり、本来敬老の意を表するためのお祝い金でございますので、金額も五千円以下で物品支給もできるといふふうにきめられているわけでございます。したがって、この趣旨を踏まえまして現金あるいは品物等を選択してまいりたいというふうに考えているわけでございます。品物の場合は実質的な額が五千円程度になるようなものを考えているわけでございます。

第四点は、幼稚園の給食でございますが、現在の状態では実施は無理である。現状では実施に踏み切るためにはいろいろ多くの検討すべき諸点がございまして、現状では無理でございます。

当面、考えられますことは、学校給食法第二条に学校での、小中学校での給食ということについては目的が定められているわけでございますが、幼稚園の給食につきましてはそうした目的が定められておりませんし、また現在の給食センターの施設では幼稚園児約千五百名おりますので、これへの給食というのは能力的にできませんし、また幼稚園の献立は小学生の献立を量と少なくすればいいというわけにはいきません。園児という心身の発達段階に応じた調理あるいは嗜好といったようなものがございますので

そうしたいろいろの諸問題がございますので、現在のところでは無理だと考えております。

それから第五点、保育園の保育料でございますが、これは国の徴収基準に準拠いたしまして、しかも各階層九割を減額し、それを市で定めましていただいているわけでございますので、適正な保育料であるというふうに考えております。

大きな第三点、中学校統合問題でございますが、これは原則としてやはり六キロメートル以上、二分の一補助という原則をもとに対処していきたいと思っておりますけれども、個々のケースについてやはり別途考える必要が生じた場合にはケースバイケースで考えていきたいというふうに考えております。

大きな第四点、一二七号館山バイパスについてでございますが、これが廃止となつたと聞くけれども、事実かどうかという御質問でございますが、国や県の関係機関に照会いたしましたところ、そうした事実はありません。

以上、答弁を終わります。

○一番（神田守隆君）　まず第一点の問題ですが、公費でなされたということなんですけれども、酒食のもてなしということ、こういうことをすることに對する市民の感情というものを、非常にさきの国会でのグラマン問題あるいは宮崎県知事の贈収賄事件など非常に疑惑なり、不信というものがあつたわけですから、こうした中で清潔な政治を望むという、そういう非常に市民の健全な感情であるというふうに私は考えるわけですが、こういう酒食のもてなしということに對する市民感情について、市長としてどのようにお考えであるか、お伺いいたします。

○市長（半沢良一君） 世間の一般的な常識として、市が一つの組織体として社会の中で活動しているわけでございます。その場合に、特別な多額の出費をしたということでは決してございませんし、あの程度の酒食のもてなしといえますか、あの程度の宴会でございませうならば、きわめて常識的な線でございますので、市民から批判されるべき問題ではなからうというふうに考えます。

○一番（神田守隆君） 私はこの問題については公費をもつてこのようにことをするということについては、私はするべきではないということ、私のそういう立場ということで市長に強くそのことを要請いたしまして、この問題について打ち切り、次に進みます。

保育園の保育料についてであります。市長は非常に適切な保育料であるというような御答弁をされたわけですが、現に現在の基準を見ますと四万一千円という非常に高い保育料が現にあるわけでありまして、私は二万五千円を超えるということについては保育料は高過ぎるというふうに考えます。

確かに、所得別による応能負担という基準があるわけですが、現在の税制のもとでは給与所得者には絶対的に重課税になつていくという、こういうことであると思います。ですから、ともかせぎで働かざるを得ない、いわゆる保育に欠ける家庭では二人とも給与所得ということになつて非常に高い階層に属することになるわけですね。そうしたことを踏まえて二万五千円という保育料ということについては非常に高い。

私が保育料を二万五千円以上の保育料をなくするにはどれだけ予算が必要なのかということで試算しましたところ、年間約二

百二十万円という数字が出たわけですが、それだけの予算を組めば十分であることであるわけです。とりあえず三万円を超える保育料ということ、私の試算では年間百万円というような金額であるわけです。特に現在の保育料の中では、私は二万五千円を超えるような保育料というものについてはやはり考え直す必要があるんじゃないかということ、また現在の市の財政的な問題からいっても財源は十分あるというふうに考えます。可能だと考えます。この点でぜひとも高い階層の保育料について、高い保育料はなくすということで市長の考えをお聞かせ願いたいというふうに思います。

○市長（半沢良一君） ただいま神田議員から二万五千円が高いというお話でございましたが、どこから高いか安いかなかなかむずかしいところでございますが、御指摘のように所得に応じまして応益的な負担をお願いしているわけでございまして、また市といえまして、すでに五十四年度の予算では七百六十一万三千円を軽減しているわけでございます。昭和五十年以来そうした軽減を図っているわけでございます。

たとえば、昭和五十年には六百万、五十一年には六百四十三万、五十二年には七百五十九万、五十三年には七百三十万、五十四年には七百六十一万というふうに年々軽減を図るための財政措置を講じているわけでございますので、その点を御了承いただきたいと思います。

○一番（神田守隆君） 質問が後先になりますけれども、第三中学校の統合問題についてであります。統合の予定地ということ、館高の跡地が計画されているわけですが、この館高跡地を全面的

に第三中学校の予定地ということで利用するという考え方なのかどうか。このへんを明らかにしていただきたい。

○教育長（安田豊作君） 館山高校の跡地全部で一万坪あるわけでございますけれども、いまのところその約千坪ぐらゐを中央公民館といいますか、コミュニティセンターの予定地として、あとの土地を三中と、いまのところは考えております。

○一番（神田守隆君） 市長の福祉施策に対する姿勢ということで五点到つたつてお伺いしたわけですけれども、特に私の方から出された問題についてぜひ実現してほしいということで、寝たきり老人あるいはお年寄りの敬老祝金、幼稚園での給食の問題、保育園の保育料ということで私の方から希望を述べたわけであります、残念ながら前進的な御答弁がいただけなかつたわけでございまして、引き続き私の方としてはこの寝たきり老人の問題あるいはお年寄りの問題こうした福祉施策の充実ということでこの点についても何としても実現していただきたいということで、私の方としては強く要望いたしまして私の質問を終わります。

○議長（石井 正君） 以上で、一番議員神田守隆君の質問を終わります。

次、一八番議員流山源次郎君。（拍手）

（一八番議員流山源次郎君登壇）

○一八番（流山源次郎君） 私は、ただいまより通告質問に入りますが、その前に、第一期半沢市政当時三億余万円の繰り上げ充当に基因し、さらに全国的な自治体の財政硬直化が重なり、非常に財政危機に追い込まれた館山市が、今日館山市が昭和五十三年度決算において一億七千余万円の黒字を計上したことに対し、市執

行部に対し、その努力、御苦労に市民とともに高く敬意を表したいと思ひます。

さて、質問の第一点といたしまして、一つ、海岸線の環境保全と観光についてを御質問いたします。

さきの通告質問の際、海岸清掃は自然が重なり苦難なる旨と、ビーチクリーナーなる機械購入に近い将来行方旨の回答がありました、どうなりましたか。また機械が導入されるまで果して現在の予算面で海岸清掃を一カ年続けられるのかどうか、お知らせ願ひます。

次に、北条海岸における県、市によるグリーンベルト地帯のヤシ並木について、今後この線で進むのかどうか。またヤシの生育及び補充についてのお考えはどうか。ここで館山市市民としてグリーンベルト地帯における一つの個所が特殊な生育を保ち、いままでも各議員たちによつて違反なのかどうか、それとも特別何らかの許可が与えられているのかとの質疑がありましたが、たまたまこのたびこの一カ所の保護網が破壊され、樹木が無断に切り倒された事件につき、改めて市の見解を問うものであります。

次に、飛砂公害の件であります、自然の猛威による飛砂は人力においてはどうしようもないことはわかりますが、現在館山市における一大宿泊地帯ができ、また市の大きな生活道が現にあり、砂地における二輪車また歩行者の困難性による交通事故に結びつく可能性が十分あります。この飛砂公害対策をどのように考えておられますか。

沖の島への道路舗装につきましては、ここ十数年来市民のいのちの地の一つとして一日も早く道路整備を要望する声があります

ことに對しまして、市は現在どのような施策を考えておられますか。

第二点といたしまして、水産振興についてお尋ねいたします。

好むと好まざるとにかかわらず国、県の工場地帯造成による東京湾埋め立て、さらには石油タンカー及び輸送船等における東京湾操業が縮小され、入漁許可権を持つあぐり漁業は何らの補償なきまま今日までまいりましたが、私としては市に對した及び救済を訴えてまいりましたが、このあぐり漁業への何らかの救済措置はないものかどうか。

漁業村落振興緊急対策事業とは何か。

第三点、館山市大型店対策協議会の解散についてお伺いいたします。ジャスコ進出等に対し、また地元商店対策指導等に大なる成果を上げたこの協議会の解散はどのような事情であるのか。今後の地元中小企業に對し悪影響は出ないものかどうか、お聞かせ願います。

第四点といたしまして、福祉政策についてでございます。

先ほど、一番議員さんの質問に對しまして、市長よりある程度の説明がございましたが、市は財政困難なる時期においては与える福祉から心の福祉を叫ばれ、また各団体も心よく市に協力して苦しみを耐え、縮小された予算で福祉活動に努力してきたのに、財政向上の現在、福祉を切る、一步後退につながる市を放れた民間移管の声が聞かれますが、市の真意はどこにあるのか。現在より福祉の後退はないと考えてよいかどうか、お聞かせ願います。以上により、通告による第一回の質問を終わりますが、回答により再質問をしたいと思います。

(市長半沢良一君登壇)

○市長(半沢良一君) 流山議員の御質問にお答えをいたします。

質問の大きな第一点は、海岸線の環境保全と観光についてというところでございますが、その小さな第一点は、現在の海岸清掃予算で海岸の美化が達成できるかどうか。合わせてビーチクリーナーの御質問がございました。

現在、海岸清掃のために本年度予算として四百三万円を計上いたしました。年間を通じてこれを常にきれいにしていくということはなかなか容易ではないように思います。市といたしましては、海浜の美観上また観光対策として年々清掃予算を増額しているわけでございますが、やはり基本的には自分たちの町、自分たちの周囲をきれいにするという雰囲気望ましいコミュニケーションの中で醸出いたしまして、お互いに努力していかなければいけないと考えているわけでございます。

本年三月の議会において流山議員からの御質問に對し、機械力による清掃を考慮するということを御答弁申し上げたわけでございます。市といたしまして、いろいろ検討いたしているわけでございますが、なかなか性能、機種、選定、維持管理、移動方法等に問題点がございまして、現在まだ検討を進めている段階でございます。市の方で最適な機種というものが検討できますならば、県からの補助金が得られますので、至急検討して御期待におこたえしたいと考えております。

小さな第二点、北条海岸のグリーンベルト地帯の今後の見通しと、さらに第三点として、グリーンベルト内の一カ所は違法行為なのかという御質問でございますが、グリーンベルト内の

枯れた部分については引き続き本年度もヤシを補植してまいりたいと考えているわけでございますが、また同時に合わせて補植後に草花等を植栽いたしまして、あそこを美化を図りたいというところで計画をいたしまして、すでに発注をいたしておるところでございます。

また、前年度グリーンベルトの総数のうち約半数を対象にして砂の除去を行いました。そうしてヤシの深植え状況を解消しまして、本年度も残るベルトを整備していつてゐるわけでございますが、またベルトに近接いたしまして給水施設を準備いたしまして、間もなく完成することになっているわけでございますが、今後とも灌水に努めまして、管理の適正を期していきたいと考えております。

グリーンベルト内の一カ所の問題でございしますが、海岸砂地は国有地でございまして、県の管理下にあるわけでございます。そういうことでございますが、一部の個所については使用者が果から直接同意を得て使用しているという旨の話を伺っております。

第四点の飛砂公害の対策をどのように考えるかということでございますが、御案内のように本市は自然現象として冬から春にかけての季節風が強いわけでございます。市におきましては砂防、防風網及びマサキを植栽するなど飛砂を最小限におさえるための努力をまいっております。また県におきましても砂防網の設置を行っているわけでございます。海岸砂地の浸食防止、海岸の保全は非常に肝要なことでございますので、海浜の景観保持、海水浴場としての有効利用、観光面からも海岸保全、環境整備に努力していきたいと考えております。

第五点の沖の島への道路舗装の施策でございますが、鷹の島から沖の島に通ずる道路の舗装については、昭和五十三年度、昨年度で鷹の島神社前から鷹の島の裏側の坂の頂上までの約三百八十メートルの間の道路を大蔵省に折衝いたしまして用地の解決がつかまりましたので、舗装工事を実施し、すでに完成をみたところでございます。

その先から沖の島までの間の道路は、現在防衛庁と道路と護岸の件に關しまして折衝をしているところでございます。

大きな第二点、水産振興対策でございますが、その第一点は、東京湾漁場の縮小に対するあぐり網救助対策はその後どうなっているかという御質問でございますが、東京湾を主漁場とするまき網漁業は、堰め立て等の影響によりまして、操業範囲が縮小するなどで漁獲の減少をきたしておりますので、これが対策といいたしまして、県においては本年度えさイワシ生けす網施設設置事業に對しまして助成金を交付するということでございますので、市もこれに合わせて助成を考えたと思っております。

小さな第二点、漁業村落振興緊急対策事業についての御質問でございますが、この対策は昭和五十四年度におきます特別の措置として、漁業集落を対象とした地域コミュニティ活動の中心となる施設整備事業と地域ぐるみの連帯感の醸成を図り、人づくりを進めるなど漁業村落の統合的な振興に資するために行う事業でございます。内容としては施設整備事業と推進事業になっているわけでございます。

ちなみに、施設事業といましては、館山船形漁協で鉄筋コンクリート二階建て約三百九十平方メートル程度の施設をつくる、

総事業費約六千二百万というふうに伺っております。また推進事業といましては、市内五つの漁業協同組合に対しまして事業費二百五十万の補助があるように伺っております。

第三点の館山大型店対策協議会の解散についてでございますが、どのような理由で解散をしたのか、また今後の中小企業に影響はないかということでございますが、この大型店対策協議会は市内の商業経営者を主体として結成された自主的な団体でございます。この協議会が解散いたしましたのは、大型店対策としていわゆる大店舗法の改正が行われたわけでございまして、従来千五百平米以上が大型店として国において規制されていたわけでござい

ますが、今度改正されました五百平方メートル以上に対してもその規制の対象になるということになりました、それが昨年十一月十五日に改正されました、この五月十四日から施行されることになったわけでございます。そうした法律の改正に伴いましてその必要性がなくなつたのでという判断のもとに解散を決議されたというふうに伺っております。またそうした法律の改正がございましたわけでございますので、地元の中小企業に対しては影響はないというふうに考えるわけでございます。

大きな第四点、福祉政策についてでございますが、この問題につきましましては先ほど神田議員にもお答えをいたしましたとおり、老人福祉センター設置の目的をより一層効果的ならしめるために民間委託を考えたわけでございますが、いろいろまだ問題点もあるようでございますので、なお今後引き続き検討したいというふうに考えております。

以上、答弁を終わります。

○一八番（流山源次郎君） ただいま市長の回答につきまして、私の申し入れた件につきまして細かく回答いただきましてありがとうございます。

再質問の件でございますが、まず現在ヤシの根元にありますところの土をおろしたその結果はどうなつたか。

それから、市の方としても学者等にお願いたしましたヤシの今後の見通しとか生育そういつたもののいろいろ参考になる勉強しておると思うのでございますが、その点につきまして今後の見通しをお聞かせ願いたいと思います。

○経済部長（太田博雄君） 実を申しまして私も植物の専門家ではございませんので、ここで大丈夫だという確言はできませんが、先ほど申しましたようにいままでの管理に不十分な点があつたということをお反省しております。今後一層留意をはらいまして管理するつもりでおります。

○一八番（流山源次郎君） 次に、グリーンベルト内の一カ所につきまして、先ほど私質問で出しましたが、各議員の間におきましていろいろなこの違法性とか、ある程度許可になつておるとかいふ面につきましては、たびたびこの海岸のグリーンベルトの件が出るたびに質問があつたわけでございますが、先ほど市長さんの回答によりますと、本質的には国、県が管理しておるところでございますから、一般の民間の人がかつてにやるということとは違法だというふうに聞き取れるわけでございますが、ただ市長さんの話では、何らかそこに話し合いの件があつたということ、たてまえとしてはこれは違法であつても、ある程度本音としてはやはり地元のそういう一人の誠意に対して幾分緩和したとか、

大目で見ているとかそういう線であるということに解釈してよろしいでしょうか。

○経済部長(太田博雄君) ただいまの御質問の合法か、違法かということにつきましては、これは所掌しておりまして県のサイドで判定すべきことであろうかと思うわけでございます。そういうことで私の方からどうこうということは申し上げられないわけでございますが、木を植えました当事者と県との話し合いの中で一応円満な話し合いができたということを知っておりますので、近いうちに整備されることと思っております。

○一八番(流山源次郎君) いまの問題に関連してでございますが、一応私どもとしても法的な立場にあり、また法によつてそれぞれ自分たちの活動しておる者としては当然法を守るということは第一条件でございますが、やはり法の裏にも何とかということではございまして、実は違法の個所であるあの一カ所につきましては、この資料として昭和四十八年の若潮国体の特集号というのが、これは県で出したのか、館山市で出したのか、とにかく国体の時点におきましては、このパンフレットが一般の市民の家に配布されたわけでございます。

この中に「マリーゴールド、ペチュニア、サルビア。若潮国体の花いっぱい運動を盛り上げようとする市民のみなさんの努力が実り、まちのあちこちに美しい花壇がみられるようになりました。国体ももうすぐ。全国から訪れる選手、役員、関係者に美しく明るい館山を印象づけるでしょう。花壇の一部をご紹介します。」ということ、
「まちは花でいっぱい、あちこちで花壇づくり」ということになつておりまして、その一として「八幡青年館に

つばな花壇ができました。この花壇は、青少年相談員や町内の方たちが総出で、労力奉仕によつてつくつたもの。」

二点は「北条海岸町内会が同町の飲食店組合の協力をえて中村公園近くのあき地にサルビア、マリーゴールド、テランセラ、ペチュニアなどを植えました。その名もなぎさ花壇。」

その三「渚踏切の手前海岸におりようとする左側のあき地二カ所に花壇が設けられました。ペチュニアの群生がみごとに開花し、道ゆくひとびとの目を惹きつけています。」

それから四の中に「北条海岸のグリーンベルトの中、百メートル余りにわたつて夏の草花が植えてあります。今、ペチュニアの花がまっさかり。石などを配置したところは海岸庭園の趣で、海岸のすがたを一変させています。これは観光荘の主人が中心となつて、海岸通りを美しくしようとする運動が実つたものです。」
という公文書にこういうふうにも書いてありますので、この違法とかどうのという問題ではなくて、ただ違法で全然だめなものがある一つの特定の人が違法でそれを続けてがんこにやつておるということでなくして、こういう一つの国体の行事があれば日本全国の人に対して花いっぱい館山市としてこういうところもあるということをやつたつてあるということを考えますと、今後の問題といたしましては、このたびの樹木を切り倒したとか、ヤシのおおいを無断で破壊するということがあつて、これが違反したから仕方がないんだということを決めつけてしまうことでなくして、海岸の美化にそれなりに協力しておるといふ人があるという場合にはコミュニケーション、そういうことでお互いにいいところは取り入れるとか、そういうことで進んでいっただろうかと思ひ

ますが、この点に關しまして市長さんのお考えをお聞かせ願います。

○市長（半沢良一君） 先ほど経済部長から御答弁いたしましたように、管轄は県でございますので、市がそれに対していいとか、悪いとかいう筋合いではございませんけれども、確かにおつしやるようにそうした美化をしようという善意、意欲そういうものは高くかわなければいけないと思いますし、やはり流山議員もおつしやいましたように、われわれの生活というのは一つの規制あるいは基準の中で、全体との調和の中で生きていかなければならぬわけでございますので、そうしたことが意欲があるから、善意があるからすべて是認されるべきではないというふうに考えます。そうした善意を全体の調和の中で生かしていただければ、周囲との摩擦も起こらないで済むんではないか、全体との調和、連帯感そうしたものが大事ではないかと考えております。

○一八番（流山源次郎君） 次に、飛砂公害についてでございますが、いまだである議員の方から飛砂公害についての質問があります。したが、そのときも市に対して砂防の網等に関する質問があつたことを記憶しておりますが、そのときに質問に対する回答が、土木事務所ともいろいろ相談して飛砂公害に対する対策をやつていきたいんですが、現在県から、土木から具体的な話がないので、市としても市独自で一メートル余りの砂防ネットを張り、グリーンベルトの高さと合わせて一メートル五十ぐらいの高さがあるもので、何とかいまよりも砂防に役立つという話がございましたが、実際面につきましては、やはり高さが低いとか、また季節風の時期になりますと人力ではどうしようもないことでございますが、

北条海岸におきましては砂だまりがあちこちにあるという現状でございます。これにつきましては、市として今後何かこれに対する砂防をしつかりとした考え、また県とのそういう話し合いによつて砂防に対する施策を持つておるかどうか。その点を詳しくお聞かせ願いたいと思います。

○経済部長（太田博雄君） 飛砂公害対策といたしまして、実は今年入つて間もなくございましたが、三浦県議と高橋県議を主宰としまして、安房支庁で会議が開かれたわけでございます。その際、私の方も飛砂防止につきましてはいろいろ県に要望してあるわけでございますが、その中ではつきりとした決定はみながつたわけでございますが、議員さんの方からいろいろ提案がなされておるわけでございます。そのものがどういうふうに取り上げられるかはちよつと私の方ではつきりいたしませんけれども、市と同じく県の方でも対策を考えておるということは事実でございます。

市といたしましては、現在遊歩道の海岸寄りにマサキを四十九年度に百十六メートル、五十二年度に百三十二メートル植えて飛砂防止に努めておるわけでございますけれども、いろいろ地元の人たちにお聞きしますと、あのものの生かし方によつては相当効果があるということも聞いておりますので、今後またそういうった線で検討してまいりたいと思います。

○一八番（流山源次郎君） 沖の島への舗装については先ほどもお話ししたとおり、市民の長い間の要望でございまして、いままでも何人となき議員の方がこの議場におきまして市の執行部に対して一日も早く舗装してくれということを叫び続けたわけござ

いますが、その市の回答を聞いておりますと、果の所有地であり、また護岸等の方は大蔵省の所管であるということで、これとの話し合いがつかなければ、なかなか市がやろうとしてもできないというところで、一日も早く話し合いに努力してもらいたいというところで今日までできてしまったわけでございますが、先ほど市長さんのお話では途中で舗装は完成したんですが、結局市民の声としてはその先、いま完成しました舗装から沖の島への舗装を一日も早く実現してくれということが叫ばれておるわけでございますが、これに對しましてそれぞれ自衛隊とか、あるいは折衝機関がございまして、それに話をしてるようでございます。それはわかりませんが、たとえば自衛隊との関係、また大蔵省の関係そういったことで、舗装の見通しがあとのぐらいたなければ完全な舗装ができないのか。もしどうしてもお話できないというなら仕方がございせんが、市の方として大体何年ぐらい先の見通しなのか、そういうことがございましたら、お聞かせ願いたいと思います。

○市長（半沢良一君） お説のようにあの土地は果有地でございますので、市独自の判断であそこに舗装するというわけにはいかないうわけでございます。やはりあそこを管理しております防衛庁といいますが、果と、あるいは防衛庁等と折衝しながらやっていかなければならない。いまここでいつということとはちよつといたしかねますが、とにかく早い機会にやりたいと思っております。

○一八番（流山源次郎君） 市の水産に対する好意には感謝いたします。

これから、現在の時点では消え去ろうとしておるかもわかりません一次産業でございますが、現在の時点におきましては、小

くねればなつたなりに、館山によその地区からカツオ船のえさの導入、また入港した船が食料品の積み込みとか、日用品の積み込み、また船の従業員が館山に入港いたしましたして落とす金額といふべきものは、現在でもざつと計算いたしましたして十億というよそからの金が館山に入っているわけでございますので、市といいたしましても、今後十分なこの漁業対策に協力していただきたいということを要望いたします。

それから、大型店対策協議会の解散の件でございますが、市といたしましても、この見通しとしては今後中小企業に対して別に何らの困るようなことはないという回答でございますが、私どもとして先の見通して危惧を抱く点は、当然現在の大型店の対策協議会が解散したということは、地元のサカモト、またおどやさん等が館山にもう一個店を持つということになつてくると、いままてよそから進入して来ようとしたジャスコとか、そういうものとの性質が違ひまして、仲間同士が仲間を規制するということが、何か反対のための反対ということで館山の商店同士がいがみ合うことはまずいということで解散の趣旨になつておりますが、その点は私どもとしても了解するわけでございますが、ただ問題は、たとえば一つの例をとつてみましても、サカモト店が現在館山の地に近いうちに開店をいたしますが、このサカモトが本当に純粋な意味で館山のサカモトが分店を向こうに持つということであれば、市内の同業者だからいいと思うんですが、ある筋からの様子を聞いてみますと、木更津のサカモトは大資本のそごうに乗っ取られてしまつたわけでございます。ところが、そごうの上部の役員の方が近いうちに館山にわれわれが進出するということを唱えてお

ることは事実につきりとその人の口からわれわれも聞いております。そういつたことになると、地元の商店がそういつた出るということに名前を借りて、そこに地元だからということである程度許可してしまつたときに、そのあと大資本をそこに入れかえになつてしまつて、肩がわりになつてしまふということになりますれば、抵抗なしに大資本が鎭山に入つてくるということが考えられますが、こういつた危惧に對しまして市としてはいかよう

に考えられますかどうか。
○経済部長(太田博雄君) ただいまのサカモトの件でございますが、不勉強でそこのところに進出するらしいという話は初めて聞いたわけでございまして、また十分検討したいと思ひます。

○一八番(流山源次郎君) 以上で、私の質問は終了しますが、先ほど申し上げましたとおり、市の方としても、市の執行部の自分たちの言つたことは間違いないということ、当然執行する方にとつてはあたりまえのことでございますが、ただコミュニケーションとか、市民のささやかな声とか、そういうものを今後十分市政に取り入れてまして市の運営を行つていただきたく要望いたしました、私の質問を終わります。

○議長(石井 正君) 以上で、一八番議員流山源次郎君の質問を終わります。

次、二五番議員五十嵐 昇君。(拍手)

(二五番議員五十嵐 昇君登壇)

○二五番(五十嵐 昇君) 私は昭和五十年九月並びに五十二年の六月の定例会におきまして通告質問をなし、城山公園に里見城を、城まではいかなくても、城郭建築の史料館を建設し、観光客

誘致の有力な手がかりとすべきではなからうかという趣旨のもとで、バス道路並びに沖の島周辺の整備、道路の改修、駐車場の開設の推移等について市当局にお願いしたのでありますが、そのま

ま今日に至つてある現状でございます。
その後、同僚議員の同趣旨の通告質問もあり、同志多数、市民の御賛同と熱心な有力識者の御賛意のもと、商工会議所内に里見史料館建設促進会が誕生し、五千数百名の市民同志の連署を得られたことはまことに御同慶にたえない次第であります。

そこで、私は議員としての立場から考慮の末、風光明媚なあの城山に市立博物館もしくは美術館、懐古館といったような建物を建設し、その中に里見氏に関する史料を中心とし、郷土出身の中村庸一郎先生、水田三喜男先生等の所蔵せらるる絵画、彫刻、工芸、美術品等について御家族、御遺族、御本人の承諾をいただき、これを幅広く展示し、郷土市民及び一般に公開していただいたならば、まことに有意義な快挙であらうと信じて疑わないのでございます。

中村先生は、房州が生んだ大実業家であり、大政治家でもあつたのでございます。今日ではすでに実業界からも、政界からも引退され、悠々自適の御境遇にあられるのであります。

水田三喜男先生は、戦後の混乱期に日本再建を志し政界に入られ、初志を貫徹された房州が生んだ偉大な大政治家であられました。

両先生とも郷土の誇りであり、後進が学ぶべきあこがれの的でもあるのであります。

さて、中村先生は大実業家である反面、美術、工芸方面の御造

詣がきわめて深く、所蔵せらるる重要文化財は国宝級のもの多く、仏像、彫刻、絵画、陶器と数多く所蔵せらるるのであります、中村コレクションの評価は、この道の通の専門家が舌をまいて驚きの眼を見張るほどのものであります。

水田先生は政治のかたわら浮世絵の収集研究家として有名をばせられ、その所蔵の数からいっても、この道の第一人者であると書かれておるのであります。

政治に関しては、安房の水田から、千葉県の水田、日本の水田として当選十三回、三十数余年間の政界での御生涯は、党の政調会長として、通産、大蔵の大臣として、はたまた城西大学、城西歯科大学の創設と、青年学徒の教育に尽力された御功績はこれまた甚大であり、先生の死後遺徳顕彰会が設立され、先生の銅像建立の議が企画されておるのであります、この会の発起人として果敢事並びに半沢市長もその名を連ねておられるのであります、館山市といいたしましても、また議会といいたしましても、すすんでこの事業を成功させる責務があらうかと存する一員であります。

この両先生の御所蔵の文化財の数多くは、おそらく郷土の大部分の方は眼に触れたことはないと思存じ、大変残念なことを信ずるのでございます。

終戦以来三十数年を経た今日、日本は経済大国に躍進し、国民生活は向上し、世界各国から驚異の眼を向けられている現状のさなか、その実態は物価のみが先行し、精神的、文化的方面が立ち遅れている現状にようやく気づいたといつて過言ではないと思われるのであります、青少年の健全育成こそ日本の将来を占うものであると信ずるのであります。

かかる見地から、両先生の人生行路を見たとき、まことに苦難の道程であり、決して安易のものではなく、その高い努力の行路は見るもの、聞くものを通して心の灯として後進の育成に生きた教材の宝庫となり、地域文化の発展に寄与する大事業であり、市長の言われる明るく豊かな香りの高い文化福祉都市実現の一翼を担うものであらうと存じます。

そこで、以上を要約いたし御質問を申し上げます。

城山公園に建立したい里見史料館についてであります、市立博物館あるいは市の懐古館といった発想の文化施設について完成を急ぎ、完成後は館山市の持つ重要な観光資源の最たるものになると思われ、市長のお考えはどうか。

里見史料館建設促進運動のその後の推移であります、学術研究調査団の結論を待つて行くと御見解を市長は述べられておりますが、その後の経過はどうなっているのか。

小さく三番目といいたしまして、里見史料館に限定せず、幅広い館山博物館建設に踏み切り、その中に水田館あり、中村館あり、また里見館あつてしかるべきではなからうかと存するのでございます。

なお、市制施行四十周年を迎えるにあたり水田、高橋、磯坂、小高の各先生を名誉市民として推戴すべきではなからうか。ことに水田先生は以上申し上げたとおりでありますので省きますけれども、高橋祐二先生は県議七期、八期半ばにして倒れたのであります、この間、館山市選出の県議として、また地元館山市の観光協会長として地方自治の向上、館山市発展のために尽された御功績はまことに大であるといふべきであります。

また、小高薫郎先生には立志伝中のお一人で、館山市を代表する大人物であり、人格、識見ともにすぐれ、若き日の青年団長を初めとして後輩の指導にあたり、のち衆議院議員に立候補御当選、文部政務次官として御活躍なされた御功績は万人のひとしく認めるところであります。

さらに、穂坂与明先生は東京の京橋木逸町に生まれ、立教中学岡山六高を経て東大医学部を御卒業になり、大正十年川名博士先生の娘壽子さんと結婚、館山病院の副院長、院長として医業に専念されるとともに、ユネスコ保育園の創設など社会福祉のために尽力され、館山市文化の向上、社会福祉の増進に多大の貢献をなされたのであります。

そこで、館山市名誉市民条例の趣旨に基づき、以上四名の方々を推戴すべきであると思いますが、市長の御見解をお尋ねいたします。

次に、大きく第二点でございますが、冒頭に申し上げました沖の島周辺の整備と城山公園のバス道路の建設についてお尋ねいたします。

流山議員が先ほど道路につきまして鋪装云々の御質問があり、大体了承いたしました。国有地の問題あるいは私有地の買収の問題幾多の困難があるうかと存じますが、館山市発展のチャンスをとらえる意味から、この建設につきましては最善の努力をしていただきたいと存じますのでございます。

ただいま最近の動向のうちで、青年会議所の諸君が奉仕、協力して沖の島内部の雑草の刈り取りから整地、その他いろいろ奉仕をしておる現状におきまして、市はいかなる態度をもつてこれに

臨むか。またこの建設につきましては国や県に対していかなる交渉をもつて進むべきであるか。

城山登山道につきましては、数年前に県の失対事業として県の直営事業で完成されたと聞き及んでおるのでございます。そこでこの登山道の建設を県の事業として着工はお願いできないものかどうか。もしもできないとする場合には県の補助金、その他について大きく補助をせよというところで早急に建設を急ぐべきである。こう信ずるものであります。

以上、御質問申し上げまして、御答弁により再質問を申し上げます。

(市長半沢良一君登壇)

○市長(半沢良一君) 五十嵐議員の御質問にお答えをいたします。大きな第一点は、明るく豊かな香り高い文化福祉都市の実現についてということでございますが、小さな一、二、三を一括して御答弁を申し上げます。

現在、県内における県立博物館は上総博物館ほか四館が開設されております。それぞれ特異性を持った博物館になっておるわけでございます。さらに県は将来総合センターとしての中央博物館を建設すべく建設を進めておるといふことでございます。

現在、県内各市町村におきましても歴史民族資料館とか、郷土資料館とかいつたものが建設されておるわけでございますが、これは各地域における文化遺産等を収集、展示し、文化の特質を明らかにするとともに、祖先や遺物を守つていこうという住民の熱意により建設されたものと考えております。

当市におきましても、先般里見史料館建設促進会より二万数千

人の署名をもつて陳情がなされ、市民の建設に対する熱意、要望は強いものがありますので、先人の貴重な遺産とも言える文化財等の保護、保存さらに展示、講習会を通じて、文化財に対する認識を高める場として館山市民俗資料館といったようなものを早期に建設するよう現在検討を進めている段階でございます。

小さな第四点でございますが、この件につきましては、本年は市制施行四十周年の記念すべき年でもございますので、どなたを推薦するかということは別として、名譽市民の推薦をいたしたいというふうに考えております。

大きな第二点、沖の島周辺の整備と城山公園にバス道路の建設について最近の動向如何ということでございますが、沖の島周辺の整備につきましては、先ほど流山源次郎議員にお答えをいたしましたとおり、鷹の島から沖の島に通ずる道路については昭和五十三年度で一部鷹の島の北側までの舗装を完成いたしましたわけでございますが、それから先の道路につきましては防衛庁と折衝いたしまして整備を進めていくつもりでございます。

それから、城山公園のバスの道路の件でございますが、城山公園に出入りするバスの道路の建設については用地の取得が大変困難だという事情もございますので、現状を十分調査し計画を立て、さらに土地の所有者の御理解をいただきまして実現に努力をいたしたいと考えております。

それから、登山道という御質問がございましたが、あの城山に上る道路のことではありますが、これは県の実情等も存じませんので、今後検討いたしたいと思っております。

以上、答弁を終わります。

○二五番（五十嵐 昇君） ただいま市長さんから総括的な御答弁によりまして、大半は了承をいたすものでございます。

ことに、この城山公園の史料館につきましては、その重要性を認識され、早期に建設をする計画である。こういうお話がございまして、われわれ非常に市民といたしまして、議員といたしましても力強さを感ずるものでございます。その実現を急ぐこと。やはりときはどんどん過ぎてまいります。私があそこに建設をしたいということの通告質問をいたしましてからもう四、五年は経過し、今日そのままだになっていない現状でございますので、やはりそういうことであるならば、館山市観光の資源の最たるものとなつていくであろう。また館山市教育の、あるいは後輩の育成に重要な資源となつていくようなものであるとするならば、やはりこれは早急に着手して実行していただきたいということを念願するものでございます。

なお、四十周年記念につきまして、名譽市民の推薦につきましては市長さんお考えのようでございますので、これまた御腹案等があり、差支えなければその腹案をお示しをいただきたいと思います。

なお、城山の登山道あるいはそれに付随いたしましてのバスの駐車場等につきましては検討中である。ことに登山道については県の失対事業で県の直営で実施された、こういうことを聞き及んでおりますので、そういう点も早急に御調査になりまして、県の事業でやつていただけるならば、館山市の経済を大変に助けるという意味で、大きな力になつていくと存じますので、でき得るならば県におまかせをし、県の事業としてやつていただくよう

に仕向けていただきたい。持つていつていただきたいということ
を強く要望いたしまして、私の質問を終わります。

○議長(石井 正君) 以上で、二五番議員五十嵐 昇君の質問を
終わります。

次、二九番議員安西益男君。(拍手)

(二九番議員安西益男君登壇)

○二九番(安西益男君) 私、四点について御質問申し上げるわけ
でございますが、まず最初の一点目といたしまして、家屋新築購
入に利子補給してはどうかということでございます。

これは、市民の持ち家の普及促進を図る上から、この制度の実
施について提案するものでございます。すでに御承知のように、
鴨川市等では実施に踏み切り、福祉事業の一環として市民の間に
大きく歓迎されております。この利子補給制度の内容については
すでに当局においても検討されておると思いますので、早期に実
現の方向に進めていただきたい。このように思うわけでございま
す。

二点目といたしましては、総合保健センターの設立及びコミュ
ニティセンターの構想計画についてでございます。

先般、安房医師会から広域行政事務組合長である館山市長宛に
安房医師会会長より、安房総合保健センター設立に対する提言が
文書で提出されたというところでありますが、これは人口の高齢化
が進み、成人病が増加し、館山市における総死亡の八〇%がすべ
て成人病で、これに並行して総死亡の八〇%が六十五歳以上の老
人によつて占められておるということであります。

そうして、今後の健康防衛、健康増進の主目標は、成人病防止

をにおいては他にないとしており、健康防衛活動の第一の手段とし
て健康教育が取り上げられるゆえんであると、そうして医師会と
しては、日本の中でも特に人口高齢化の進んでいる安房郡を成人
病から防衛し、健康の増進を図るために安房総合保健センターの
設立を求めるという趣旨の内容であり、やがては付属病院や高等
看護婦学校等そうした施設も計画したいということでありま
す。広域行政事務組合長としての市長に直ちに取り上げるように提言
しておりますが、この問題につきましてどう対処されるか、お尋
ねしたい。

なおまた、かねてより構想としてコミュニティセンターの建設
計画を検討しておるといふうに聞いておりますが、地域住民の
交流の場として昨今関心は高まつており、その実現は大きく地域
社会に貢献するものであると思います。市当局の方針をお聞かせ
いただきたい。

三点目、館山小学校通学児童のバス待合所の雨よけ設置のその
後の経過についてであります。この点につきましては過ぎた三
月議会、なおまた予算要望の折にも御提言申し上げてありますが、
その後父兄の意見あるいは場所の検討等なされたことと存じま
す。その経過についてお聞かせいただきたい。

四点目、災害時の対策準備と点検状況についてでございますが、
昨今地震対策については現実のものとの前提に立つて各地域にお
いても準備し、対策を進めておることは周知のとおりでございま
す。さきの静岡地震、宮城沖地震等を貴重な教訓としながら、今
後災害が発生した場合の地域防災の具体的な実施計画を策定し、
きめ細かな対策を確立しなければなりません。

現在の防災対策基本法では、義務づけられた自治体への防災計画は水害や防火対策が中心となっており、具体的な地震対策はほとんど盛り込まれていないのが実情であります。故に、これまでの地震被害等をもとにして考えた場合、まず水道、電気、ガス等は重点的に考えられることでありましょう。もちろんその他種々の問題はありますが、特に飲料水の確保をどのように講ぜられるのか、今回は飲料水の問題についてその対策をお尋ねいたします。なおまた、ブロックべい等の点検も必要と思われしますが、どのように考えられておりますか、この点もお聞かせ願いたいと思います。

以上でございます。

(市長半沢良一君登壇)

○市長(半沢良一君) 安西議員の御質問にお答えをいたします。

大きな第一点、家屋新築購入に利子補給をということでございますが、この点につきましては、持ち家の普及促進を図るべく利子補給制度の制度化を確立しまして、市民の福祉増進に寄与する考えでございます。本年四月以降検討中でございますけれども、可及的速やかに実施したいと思っております。

第二点、総合保健センター設立及びコミュニティセンターの構想計画についてでございますが、総合保健センターの設立につきましては、先般安房医師会長より安房郡市広域市町村圏事務組合理事長へ、文書により建設に関する提言がございました。

その提言の趣旨は、安西議員の御指摘のとおりでございます。現在総合保健センターの内容、運営等について、今後引き続き安房医師会で検討をいたしたくになっております。

た広域市町村圏事務組合におきましても関係市町村とともに検討していく方針でございます。

コミュニティセンターの構想計画についてでございますが、コミュニティセンターにつきましては、市民が気軽にしかかも多目的に利用でき、お互いの交流が図れるような場として中央公民館、勤労青少年ホーム、文化会館、健康増進センターを有機的に結びつけた複合的な多目的な建物を現在検討しておりますけれども、国からの補助金につき次第、早期に実現を期したいと考えております。

第三点、館山小学校通学児童のバス待合所の雨よけの設置についてでございますが、本年三月の議会で館山小学校児童のバス待合所設置につきまして御質問がございましたので、その後そのことにつきまして検討を重ねてまいりましたが、現在の児童専用バスの停留所の位置に待合所を設置することは、その下に消防用水の貯水槽がございますので、不可能でございます。

そこで、現在のバス停留所より約二十メートル西側に空き地がございますので、現在草地になつておりますので、この土地を適当な場所だと考えますので、地主と交渉中でございます。地主の了解も得られそうな段階でございますので、その土地の解決を図って施設を設置するような方向で現在検討中でございます。

第四点の災害時の対策準備と点検状況についてどう御質問でございますが、本市におきまして災害対策は基本的には館山市地域防災計画の定めるところによつて推進をいたしているわけでございますが、現在は特に重点としておりますのは地震対策でございます。まして、地震対策の施設、器材、器具の整備に努めているところ

でございます。

地震対策の基本とするために、具体的には地震対策基礎調査を現在実施中でございますして、この結果により具体的な対策を再検討していく予定でございます。

特に、御心配になつております飲料水の確保につきましては、耐震性井戸付貯水槽を本年度建設する予定でございますし、浄水機をさらに数をふやしていくことも考えております。また学校のプールもアルミプールにいたしまして、これを災害時に備えて飲料水の確保をいたしたい。同時にまた井戸の再認識を図るために共同井戸等の調査も実施中でございます。

それから、過去の地震におきまして問題になりましたブロックベいについては昨年九月にとりあえず通学路周辺における状況を点検済みでございますが、今後基礎調査の結果により検討を進めていきたいと考えております。

以上、答弁を終わります。

○二九番（安西益男君） ただいまいずれも前向きな、そうしてまた実施の方向だということでございますので、大変心強く思うわけでございます。

第一点目の、四月以降検討し、早期にということでございますので、なにごとよろしく、市民の大きな関心事でございますのでよろしく願います。

総合センター、これは規模も提言等の内容を見ますと、大変なことではありますが、システム、目的といえますか、大変地域におきましてもつともだというふうな強い感じを持つわけでございますので、市側としてはどのように側面的といえますか、そういう

た立場で、広域的な立場でどう対処されるかなということが、判断がわかつておればお聞きしたいと思うわけでございます。

次のコミュニケーションセンター、これは内容等も相当検討されて総合的な多目的な施設も加えて推進するということでございますが、この点も十分びしつとしたものをつくつていただきたい。このように要望するわけでございます。

なおまた、三点目の館山小学校の児童の雨よけの問題であります。このこともまた貯水槽の場所がございませうけれども、できれば近くに空き地があるということと検討されておることとでございますが、これも長い間のやはり父兄の願望でもあります。

また、なおもう一カ所海員学校のところ。二カ所。田村病院のところともう一カ所は登校のときだけ。片方は帰りのときだけの場所ですが、これはかにた村の入り口に一カ所。ガードレールがありまして、一メートル間隔で側溝の上にふたがしてありますので、その上に屋根をつくつたら、ある程度というふうなことも考えられますが、この点も御検討したか、検討しなければ御検討願いたいと思いますが、その点をひとつお聞かせいただきたい。

それから、地震対策いま申し上げましたように、どこでもそうだと思いますけれども、非常に昨今地震に対する対策、準備そういうことが積極的に進められておる。これは周知のとおりでございますが、館山市の館山市地域防災計画これにもあまり具体的な地震対策は計画されてない。特にこれはどういうわけですか、百三十九ページからとんで百七十一ページということで、地震災害予防計画という見出しだけ若干書いてあつて、あとページが抜け

ていますが、何かここにはさむというお考えか、具体的に計画があるのか。ページがとんでいます。百三十九ページから百七十一ページにとんでいます。この点はどういうことか。

特に、地震対策について具体的に地域防災計画にはとんど載っていない。学者等の調査を進められておるということでございますが、そういうことが終つてから、あるいは具体的なそういう方針をお決めになるのかということも考えられますが、まず地元でできる範囲、ガスにしても、電気にしてもなかなか困難性があります。これらは何らかの方法を考えなければなりませんし、特に水の問題、地元としての対策いろいろ御答弁がありました。耐震性の貯水槽あるいは浄水機等の設置さらには民間の井戸の活用できる場所そういうところをチェックして、いざというときには使えるようなそういう準備もしておいたらどうかということも御検討していただきたい。このようにお願いするわけでございます。

いろいろ市は、市民の立場として努力もし、検討されておるということは十分わかりますが、なお一層こういつた点について御検討いただきたいというふうに思ひまして、もう一点防災、地震対策に対する具体性がないということに対してお考えと、かにた村の入り口を検討されたかどうか。あとは大変前向きな回答でございまして、よろしくお願いいたします。

○市長（半沢良一君） 総合保健センターについての医師会からの提言でございしますが、これはそういうものをつくるべきだという御提言がございまして、ある程度の具体性を持ったものではありましたが、まだまだ十分検討されたものではありませぬ。

で、一休事業主体がどこになるのか、あるいはどの程度の施設をつくるのかとか、設立後などが、どういうふうに運営するのかといったような問題については全然触れていないわけでございます。そういう意味で、医師会に引き続き医師会の立場からまず検討していただいて、その成果を得た上で市町村事務組合でも検討したい。そういうことになっているわけでございます。

○教育長（安田豊作君） 館山小学校の生徒の停留所の件、大賀や笠名の方まで検討したか。みましたけれども、停留所というのはバス会社ともいろいろ折衝いたしましたけれども、バス会社は一切つくらない。地元の人が利用するために部落の人がつくるんだ。これがいままでつくられなかった経緯だそうです。

一番初め御指摘のありました館山小学校の生徒が待つている田村第二病院の前の、あそこはたまたま館山小学校の児童専用です。で、この問題は館山小学校の生徒専用だから、それについてはいろいろ私の方でも前向きに考えるということでいま検討中でございますけれども、私の方が独自につくるということではなく、地元やPTAと相談した上で進むということで前向きに検討しております。

それから、それと同じように、宮城、大賀の方も同じようにするということとはちよつと行き過ぎではないか、地元とそういう点では御質問の趣旨を体して話し合っていきたい、こう思っております。現在その程度でございします。

○民生部長（鈴木力君） 防災計画の加除でございすけれども、これにつきましては百三十九ページから百七十一ページ欠ということになっておりますけれども、これにつきましてはいままで防

災計画いろいろございましたけれども、その中でいゆる必要なくなつたということで除去したわけでございます。そんな関係でございます。

次に、地震対策の中の具体的な対策でございますけれども、防災関係基礎資料の収集ということにつきまして、ただいま調査委託をいたしておるわけでございます。先般正式な委託をいたしましたわけでございます。この調査につきましては五十四年度、五十五年度二カ年にわたりまして調査することになっておりますが、その調査の結果に基づきまして、さらに地震対策につきましてはつぶさに検討いたしまして対策を立てる。こういう計画でございますので、そのように御理解をいただきたいと思うわけでございます。

それからなお、飲料水の井戸等の利用につきましても、ただいま各地区の古井戸等につきましては調査検討を加えておる次第でございますので、いましばらくお待ちをいただきたい。

以上でございます。

○二九番（安西益男君） 総合保健センター大変趣旨としては結構でございますので、まだまだ相当これから研究されていかなければなりませんし、具的的なことはつきりしておりませんから、しかしその目的ということは大変結構なことでございますので、市としても応分の相談をしていただきたいと思います。

二点目の通学児童日よけそして雨よけに關しますこれは国鉄あるいは日東バスだと存じますが、これは地元の小さな子供がかさをさしたままで待つてゐるという状態、夏になれば小さな子供が暑い中で待つてゐるという状態、そういうことをどのように解消

しようかということからまず始まつたわけでございます。その用地にはどうするかということから進めていかなければならない。そのへんもなるべく暑くならないうちにできますようにお願いしたいと思ひます。

地震対策についてでございますが、館山市としては積極的に専門家の調査等も依頼して進められておるということでございますので、今後の具体的なそういう市民の期待にこたえるような方向にいかれるだろうということを大いに期待いたします、よろしくお願いしたいと思います。

以上、私の質問を終わります。

○議長（石井 正君） 以上で、二九番議員安西益男君の質問を終わります。

午前の会議はこれにて休憩とし、午後一時再開いたします。

午前十一時四十五分 休 憩

午後 一時 三分 再 開

○議長（石井 正君） 午後の出席議員数二十七名、休憩前に引き続き会議を開きます。

二〇番議員石井武敏君。

（二〇番議員石井武敏君登壇）

○二〇番（石井武敏君） 私は、本定例会におきまして通告をしてあります各諸点につきまして御質問をいたします。

まず第一点は、老人問題ですが、豊かな生きがいのある老人対策についての長期的ビジョンを問うという質問であります。

第二点は、青少年問題で、青少年のすこやかな成長と生きがいのための対策がどのように進められているかという質問であります。

す。

第三点としては、農業問題ではありますが、農業経営者の生活向上のための施策がどのように進められてきているかという質問であります。

第四点としては、住民サービスをどのように考えているかという問題で、これは市のコンピュータの活用と広域市町村事務組合でやはり行っております霊柩車の夜間の運用の二つの内容からの質問であります。

さて、第一点の老人問題についてであります。最近の人口調査によりますと、老人人口は今後年を追ひ増加の一途をたどることが明らかになつてきております。私が今回の通告質問の第一点として老人問題を取り上げました理由は、この高齢化社会へ進んでいる現状にあります。福祉社会の実現とはまさに老後問題、老後保障のいかんにかかっていると一言でも過言ではないと思ひますので、この問題に対する市長の基本的な考え方を承りたいと思ひからであります。

さて、日本人口の将来がどうなるかという推計によれば、十五歳から六十四歳までの人口と六十五歳から上の人口の割合を見ても、昭和五十年の時点では一一・六％から昭和八十五年には二五・五％と今後三十五年のうちに二倍になると推測されております。当市におきましても老人人口の増加率を見ますと、昭和四十年には五千二百九十八名であり、全人口の九・四％であつたものが昭和五十年には六千六百五十七名で、全人口の一一・八％になつております。そして昭和五十二年には六千八百七十六名で、全人口の一二％を超えております。そしてその後も増加の一途

をたどつてきております。それだけに社会的に見て老後の備えはどうなっているかは大変大きな問題であると言えます。

これまでの老後保障は、そのほとんどが老人年金に論議が集中していたように思います。もちろん年金の問題は老後の柱となるべき大切な制度であります。これからの老後保障は年金ばかりではなくて、老後の勤労と老後の福祉の、この年金と勤労と福祉の三本の柱から構成され、単に安定した老後ではなくて、さらに進んで、豊かで生きがいのある老後の確立を基本としていくものでなければならぬと思ひます。

まず、年金におきましては、老人になつても安心できるナショナルミニマムが保障されてこそ、経済的に迫られての生活就労を越えた生きがい就労としての老後の勤労の大前提がまずつくられることとなります。その前提に基づいた老後の勤労保障、すなわち経験と能力の生かせる老後の勤労保障についてであります。最近定年制の延長が話題になりますが、六十歳以降働きたいという高齢者は数多くいると思ひます。これらに対しては高齢者の特性にふさわしい職業の開発が行われなければなりません。また公共職業訓練には六十歳以上の老人のための訓練施設が必要であり、職業指導と就労との一貫した体系の整つた施策が必要となるのであります。その点市長はいかに考えますか。

次に、コミュニティの温かさに包まれた老後福祉システムの確立についてであります。老後の生活の場は基本的に住みなれた地域コミュニティにおいて営まれなければならないと思ひます。問題は地域の中で楽しみのある老後をいかにつくり出すかです。その意味で生活圏に老人の生活様式を配慮した施設が計画的に配

置されることが必要です。老人が住宅、健康、文化、レクリエーション、趣味、教育を享受できるとともに、子供、青年、成人等各世代とともに生活が送れるようなコミュニティが創造されなければなりません。これらの老人を取り巻くコミュニティについて市長の基本的な考えなり、構想なりをお伺いしたいと思うものであります。

次に、老人の生活用具の貸し付け制度を確立したらどうかという提案であります。施設に入り生活をしている老人と、施設の恩恵に浴せない老人との格差をなくしていく上にも、長期にわたって家庭で寝たきりの状態になっている低所得の老人に対して特殊寝台の貸与、マットレス、浴槽及び湯沸かし器の給付を行う制度はさつそくにでも必要な制度であると思います。これらの制度も市の給付条例なり給付要綱を整備し、設置し、広く老人に公開し、利用度を高めていつてもらいたいと思うのであります。以上申し上げましたように、私はこれら在宅老人の福祉施策の整備及び確立を強く要望するとともに、市当局の今後の対処方を御質問いたします。

次に、青少年のすこやかな成長と生きがいのための対策はいかに進められているかという点であります。青年期は特に自主的創造的な能力と批判力を養い、同時に社会の成員としての協調性や責任感を培う時期であり、まさに人間としての人格と能力を身につけようとする欲求と努力がすぐれて発揮される人生の中で最も重要な時期と言えますが、そういう意味から健全な心身をもつて育っていくことはすべての国民の願いでもあります。しかし豊かで多様な能力を追求する青少年にとって、家庭をはじめ学校、

職場、あるいは地域社会にわたって健全であり、活力と生きがいをもつて過ごせる環境と条件が保障されていなければならないと私は考えます。

さて、そこでお聞きしたいことは、最近ブームにつて当市にも到来をきてきておりますインベーダーゲームについて、これらの遊戯についてそれが与える青少年の影響について当局の見解をお尋ねしたいと思うのであります。聞くところによりますと、これらの遊戯には金がかかり、ある地域におきましては社会問題化しつつあるところもあるようですが、当局の対策としてはどのような対策がありますか、これが第一点。

次に、シンナー遊びについてであります。この点については、接着剤を誰が買いにいつても簡単に手に入るといのが現状であるようですが、業者に行政指導できないものか。これらの対策はどのように進められてきているかをお尋ねいたします。

また、児童に有害な図書の規制はできないかという問題であります。これは有害図書を読んではいけなと指導するよりも、国民の将来を託する側の私たちの手によつて悪書の氾濫を防いでいく方法はないかと考えるわけですが、その点につき当局のお考えをお聞かせ願いたいと思うのであります。

次に、児童相談所の設置はできないかという問題であります。この点につきましてはかつて市の根幹事業計画の中に児童相談所の設置計画があつたと記憶しているものであります。その後その計画が姿を消し今日に至つておるようでありますが、児童相談所の持つ重要な役割を考えると、当然設置されてしかるべきではないかと思いますが、その点はいかがでしうか。

次に、農業経営者の生活向上のためにどのような施策がとられているかという質問であります。当市におきます農業従事人口数は三千百八十八戸、一万三千名であり、総人口のうちかなりの人々が農業に従事をしているわけであります。当市の耕作面積は水田は千四百三十五ヘクタール、畑は五百四十三ヘクタール、果樹園は五十八ヘクタールであります。

さて、当市の農業政策は何かということを考えてみたときに、特に農業政策の目玉というものが見当たらない。何か漠然としていて当市の農業はこれだと主張できるものがない。当市における農業の主軸というものを確立する必要があると思います。この農業政策の主軸は各地方自治体それぞれ特色があり、独自のものをもっているわけです。当市においてはその特殊、または独自の施策が見当たらないのであります。

そこで、今回の私の質問は、農業用器具の貸し出し制度はできないか、畜産公害にはどのように対処しているか、農業後継者の確保、育成に対してはどうかという三つの質問にして私は提出したわけであります。いわゆる現在の農業政策の主軸の欠如は、当局の農業への愛と認識の欠如であると思われまして、この点についてのお考えをお聞かせ願いたいと思うものであります。

次に、住民サービスをどのように考えているかという質問に移りますが、各課にコンピューターの導入をして、より合理的処理をして現在のコンピューター業務のレベルアップをもつて住民サービスの向上はできないかという質問であります。現在コンピューターによる業務内容は次のようになります。人事課においては六種類コンピューターを使用しております。財政課には四種類、

収納課には五種類、税務二十四、保健十八、福祉事務所五、建設一、農水一、農業委員会一、選管七、市長公室一、庶務一、収入役室二、学務体育七、社教三、水道三、広域六、三芳水道三、環境保全四、市民課三という割合によってコンピューターを活用しております。

さて、これらの課の中で特に市民の出入りが頻繁な市民課の例をとつてみますと、一日の処理件数は約二百五十件から多い日で三百件にも上ります。この市民課関係のコンピューター使用回数年にわずかに四回であります。どのような内容のものをコンピューターにかけているかといいますと、住民閲覧名簿年一回、年金適用対象者名簿年一回、七十歳到達者名簿年一回の四回で、業務内容はわずかに三種類であります。しかるに市民課の窓口は市民の応対で大わらわの状態であります。これら繁雑な事務処理にコンピューターを利用していけばより多くの市民と直接に接する場としての市民サービスの向上に役立つのではないかと考えます。

また、これらの事務処理は漢字を必要とするものが多いだけに漢字のコンピューターを導入して活用すれば一層の効果の上がるものと思われまして。元来市役所の事務処理はかな文字ではなくて漢字が本来の姿であると思ひますので、漢字のコンピューター導入を検討していただきたいと思います。この点についての市長の御所見をお伺いしたいと思います。

最後に、広域事務組合で行っている霊柩車の夜間運用に関して市長のお考えをお聞かせ願いたいと思うものであります。この業務は昭和四十八年五月一日から開始されて現在に至っているのではありませんが、この業務内容は自宅から火葬場までの搬送を主たる

仕事としておりますが、私がお聞きしたい点は、夜間においての搬送であります。たとえば夜間病院から自宅へ、あるいは夜間民家から民家へと移動を余儀なくされる場合が生ずるのですが、その際頼るのは民間経営の霊柩車ですが、市内には正式に許可のおりた車は一台しかないのであります。この種の車の許可を取るのには陸運局との関係で大変むずかしいと聞いておりますが、現実にはこのような場合に遭遇した場合は、一般的に一般車——マイカーに身内の人が乗せて運ぶ例が大変多いと思っております。しかし一般車に乗せて運ぶという行為は公衆衛生上からもあまり好ましいものではないと思われまして、そこで夜間時には空車となつてゐる広域事務組合の車二台を活用できないか。活用の方法はいろいろあると思いますが、たとえば業者に車を委託してその業務にあたらせるとか、さまざまな方法が考えられると思いますが、まずそれらに関する市長の御見解をお伺いしたいと思ふのであります。

以上、数点にわたり質問しましたが、御答弁によりまして再質問をいたしたいと思います。

(市長半沢良一君登壇)

○市長(半沢良一君) 石井武敏議員の御質問にお答えをいたします。

質問の大きな一点は、豊かで生きがいのある老人対策についての長期的ビジョンを問うということでございますが、その小さな第一点は経験と能力を生かせる老後の勤労保障についてどう考えるかということでございます。

この点につきましては、中高年齢者の就職につきましては、県

にお願いをいたしまして公共職業安定所の窓口の延長として市に窓口を設け、安定所職員が常駐し、相談業務を行つておりますし、職業としてではなく何か仕事がしたい、何らかの収入を得たいという人達が集まつて各人の経験、能力を生かす場をつくるということがすなわち勤労保障につながると考えられるわけでございまして。また生きがい対策としてもそういうことが考えられるわけでございます。最近東京都を中心にして高齢者事業団というのができておりますが、これもまたそうした趣旨によるものでございまして。早速市ではこれを研究しておりまして、ただいろいろ地域的な問題もございまして、市の場合には直ちにそれができるかという問題もあろうかと思ひますけれども、現在いろいろの調査検討をいたしておるところでございます。

第二点の問題につきましては、高齢者を含めまして地域に住むすべての人が一体となつて心豊かな福祉社会を実現するために、それぞれの地域で社会連帯の精神に基づいて福祉活動を展開していくという、いわゆる地域ぐるみの社会福祉がまず基本であり、また必要であるかと思ひわけでございます。特に老人のための福祉施設を地域に設置することではなくて、それぞれの地域にございまず公民館等の施設を大いに活用していただくことを期待し、また老人福祉センターのよりよい利用を推進していくべきであらうかと考えているわけでございます。

第三点、老人の生活用具の貸し付け制度をしたらどうかという御質問でございますが、長期にわたつて家庭で寝たきりの状態にある低所得の老人に対しまして、日常の生活用具として特殊寝台の貸し付けとか、あるいはマットレス、浴槽及び湯沸かし器の給

付を行うという国の制度があるわけでございますが、しかもこの制度を今後ひとつ積極的に活用するために要綱を定めまして、在宅福祉の向上を図つていきたいと考えております。

大きな第二点、青少年のすこやかな成長と生きがいのための対策はどのように進められているかということでございますが、現在市といたしましては青少年健全育成基本方針の目標達成のために青少年関係機関、団体及び市民の参加を得まして、青少年育成市民会議を結成いたしまして、行政と市民サイドが対応して育成活動を展開しているわけでございます。そうした方針のもとにやっているわけでございます。

いま御質問の第一点のインベーダーゲームにつきましては、現在のところ当市では問題は生じていないように伺っておりますけれども、しかし今後悪影響が出ることも当然考えられますので、校長会とか教頭会を通じて児童への指導方を指示する考えであります。

第二点のシンナー遊びにつきましては、表面に出ました検挙、補導の件数は減少の傾向にございますけれども、最近はやり方が巧妙になつてきましたために発見が困難になつたので絶対数が減少したのではないというのが警察の見方でございます。この点につきましては青少年育成機関、あるいは各家庭等を通じて広報につとめ、絶滅を図つていく考えております。

第三点の有害図書規制はできないかということでございますが、有害図書の販売を制止するということは、出版、営業の自由の問題から困難なことでございますけれども、青少年健全育成のため公共の福祉に反しない限り積極的に規制しなければならぬと考

えております。具体的には千葉県青少年健全育成条例に基づきまして有害図書を指定いたしましたして、書籍組合を通じて自費を促しているところでございます。

第四点の児童相談所の開設はできないかという問題でございますが、児童福祉法第十五条に都道府県は児童相談所を設置しなければならぬという規定ができておりまして、設置主体は市でございます。市におきましては昭和五十年に児童相談所の誘致につきまして県に要請いたしました結果、県は昭和五十一年作成の新総合五カ年計画の中で県南に児童相談所を建設するということが組み入れられまして、昭和五十四年四月に君津児童相談所の開設をみたわけでございます。現在市といたしましては利用件数は年間約三十件乃至四十件でございますので、君津相談所を利用することによつてその目的が達せられますので、館山にこれを設置するという考え方はございません。

大きな第三点、農業経営者の生活向上のための施策についての御質問でございますが、その第一点は農業用器具の貸し出し制度はできないかという御質問でございますが、農業用器具の貸し出し制度につきましては現在館山市の農協でトラクターを一台所有し、運転技術者付きで使用料を徴収して要請に応じているわけでございます。現在県下の各市町村では貸し出し制度はございません。いろいろ機械器具の維持管理が困難であるとか、あるいは農作業が同一時期に集中してしまふ、そういったような問題点もございまして、当市といたしましては農器具を購入して農家に貸し出しする制度につきましては現在考えておらないところでございます。

小さな第二点、畜産公害はどう対処しているかという問題でございますが、畜産公害の解消と耕種農家に堆肥を供給し土壌還元することを軸とした畜産複合地域環境対策事業を昭和五十四年度で実施できるように現在計画中であります。具体的には、本年五月五日に館山市農業畜産振興組合が設立されまして、同組合が事業主体として実施いたすことになっております。

第三点の農業後継者の確保、育成に関する問題でございますが、農業の発展を期するためには、次代の中核的担い手となるべき農業青少年の育成確保がきわめて重要な課題でございます。このため農業関係機関と連携を図り、家庭での後継者の育成、生産組合等の団体における後継者の育成に協力を求めながら指導援助を行つていきたいと考えております。現在農業専従後継者を中心とした館山市農業企画研究会がございまして、この充実を図つてまいりますし、また農村青年グループの育成も図つているところでございます。

大きな第四点、住民サービスをどのように考えているかという御質問でございますが、本市は行政事務の簡素化と住民サービスの向上を目的として昭和三十九年の総合事務改善によりまして窓口事務の統合を実施以来、昭和四十六年には電算機の導入を図り、当初は給料及び税の計算処理でございましたが、現在はその適用業務の範囲は大幅に拡大されております。昭和五十四年度事業は通常業務に市税等の消し込み事務を加えるため関連データの調整を図つており、十月から水道料を、五十五年度から税関係の処理ができる見通してございます。また、これに関連するもので、窓口事務の改善のため特に住民利用が多くある窓口、たとえば市民

課とか税務課等におきましてディスプレイという装置を設置いたします。これはテレビ画面のようなものでございまして、要求により必要なものを映し出すことができる装置でございますが、このディスプレイ装置を設置いたしまして、コンピュータと通信回線で結びまして、各種の証明書及び税務記録等が窓口で即座に対応できるように改善をいたしまして、十月からこのシステムによる事務処理ができるように準備を進めているところでございます。

また、漢字の問題でございますが、かな文字は経費とパンチャの能率の上からは利点があるわけでございます。しかしながら漢字処理は読みやすい、行政事務の簡素化という点からも利点がございますので、漢字処理システムも現在試行期から実用普及の段階にまいつていっているわけでございます。本市の場合は先に申し上げましたとおり、現在消し込み事務の移行準備中ですが、これと併行して移行することは困難性がございまして、消し込み事務の移行が完了いたしました時点で漢字処理システムへの移行を検討し、住民によりよいサービスができるように検討いたしたいと考えております。

最後に、小さな第三点の霊柩車の夜間運搬の問題でございますが、御承知のように霊柩車の業務は広域市町村圏事務組合の所管に属しておりますので、館山市だけの考えて判断はできませんけれども、委託することの適否、あるいは委託するとしてもその方法等いろいろ問題があるかと思われまします。このような要望が多いということでございますれば、広域市町村圏事務組合の機関で協議事項として取り上げ、検討してもらうよう働きかけたいと思

ります。

○二〇番(石井武敏君) たいだいまるる御答弁がございましたが、なお数点にわたりまして再質問をいたしたいと思うわけでございます。

まず、老人問題についてでございますが、これは現在市に相談室を設けてあるというように答弁がありましたけれども、これは正確に言いますと、何係とかといつて独立しているものでしょうか。館山市内の老人人口数は全国的に見まして、全国の中でも非常に総人口との割合を見ますと老人が多いというデータが出ております。それだけに老人問題に関してはこれは当然来るであろう高齢化社会に対する対応でございますので、他市に比べて力が入つていても決して不思議ではないんじゃないかというように考えるわけですが、この現在扱っている老人の係、これはどういうもののなかよく理解できませんので再び説明を求めます。

現在の時点では、また老人の総人口に対する割合というのは館山市としては何%になつてきておりますか。もしデータがあれば答えてください。なければ結構です。

それから、いまの私の再質問の背景には、市長の答弁の中にもありましたように、県内の地方自治団体の中でもすでに高齢者事業団の設立やあるいは高齢者就労事業の開発に関してかなりの動きが目立ってきているわけです。私はいまの答弁の中からこういつた県内の老人対策に対する動きを早く察知して立てている対策であろうというふうに解釈をしているわけですが、前向きな答弁をひとつお願いしたいと思います。

それから、コミュニティの温かさに包まれた老後福祉システム

についてですが、これは先ほどの答弁では公民館あるいは福祉センター等々の既存のセンターの中に老人のコミュニティがある、もちろんそうであります。老人を取り巻くコミュニティというのは、一つは老人が子供とか青年、成人等各世代とともに生活が送れるようなコミュニティの創造についてはどのように考えますか。

たとえば、一つ例を挙げて御質問しますが、老人との同居のための住宅の増改築に際しまして長期的資金の貸し付け制度とか、それらに対する対策、施策にはどのようなものがあるか。いまやつていなければお考えがあるかどうかという質問をいたします。

それから、老人の生活用具の貸し付け制度の問題であります。これは現在国のほうでこういう制度でやりなさいということできていると思うんですが、これは具体的にいえば貸し付ける、給付をする要綱とか条例とか、そういういたものが無いと貸すことができないと思うわけでございます。現に館山市内の老人の施設に入っている老人と在宅で寝たきりの老人の数を比べてみたときには在宅老人が多いということは明らかであると思っておりますので、そのへんの、同じ老人でありながら一つは施設の恩恵に浴することができ、あるいは片方の老人は在宅で家族に面倒をもらいながら大変気がねをしなから過ごしていかなければならないというように格差があるわけです。この格差を是正するということ意味でもひとつ早い期間にこの制度を運用していく必要があると私は思うわけです。いづれから運用できる準備があるのか。制度的なものとかそれを給付していく給付要綱なり、たとえば給付要綱はいつごろつくるつもりなのかという質問なんです。私はそういうよ

うに老人の格差をなくしていくために早急に取り組んでいく必要があるんじゃないかというように考えますので、そのへんのところをもう少し明確に御答弁を願いたいと思うわけでございます。

続いて青少年の問題であります。これは市民会議の結成がありまして、それを市のほうでも育成をしてみたいという答弁だったように思いますが、これは大変結構なことだと思います。

また、インベーダーのゲームにつきましては、現在は問題が生じていないというように答弁がありました。しかしこれはたとえはインベーダー、最近はやってきたものですが、今後これに似た何らかの遊び道具が開発されて流行するかわかりませんが、要は館山市内におけるこういったものの入ってきたところの情報の収集とか、そういうものが必要ではないかと思うんですが、情報を正確に収集できなくては的確な対策が立てられないのではないかなと思うわけです。そういう点でたとえばこのインベーダーは館山市内に何台ぐらい設置されているんでしょうか。それがわかったら教えてください。

今後問題が起こるかどうかということは、可能性のある、含みのある問題であると思います。事実ほかの市では問題化しているところがあるわけですから。確かにインベーダーのゲーム内容、そのものについては問題はないけれども、他の地域で現在問題化しているところを見れば、その問題化した背景には家庭の問題とか友人関係とか、あるいはもともと問題を起こす傾向のある児童がそのようになつていくのかもしれないんですが、しかしこの遊びが一つのきっかけをつくつていくというところは確かに言えると思います。犯罪に至る一つのきっかけ、一つの引き金をつくつていく

ということとで、この点に対してどのようないままで調査なり、検討なりが具体的になされたか御説明願いたいと思います。

それから、シンナー遊びについてですが、いまは減少の傾向にあるという答えが返ってきました。これも問題化してしまつた、表面化した部分というのは氷山の一角であるうと思われまふ。ですから問題化する前に、事前にどのような対処がなされているかということが重要な問題になるのではなからうか、必要ではないかと思うんです。いままで市の広報等、広報関係でこれらの対処につとめてきたような御答弁があつたように承りますが、接着剤の販売に対してはこれまで行政指導をしたことがありませんか、どうでしょうか。もしあつたとしたらどういう形態で何回ぐらいあつたか。簡明にお答え願いたいと思います。

それから、有害図書の内容に關しまして、これは御答弁では販売の禁止はできないが、なるべく有害図書の規制をできる範囲内でやつてまいりたい、具体的にはそれを販売している業者に申し入れをするとか、そういうように御答弁承つたんですが、この問題は一つは現代社会の悪癖のようなものだと思うんです。やはりこれに關してはしかるべき運動を起こしていくとか、現実に氾濫しているものに対しては販売業者に子供の目に触れないところに置くように協力を求めるとか、悪書追放の運動の中にはきわめてきめの細かい、すぐにでもできることがたくさんあるように思われまふ。こういった運動とか働きかけに關してはどういうように具体的に考えておりますか。なおお聞かせ願いたいと思います。何かいままでの対策や働きかけでは非常に不十分に思いますので、なお再質問いたします。

それから、児童相談所の開設についてですが、児童相談所の開設というのは市の仕事ではない、市の仕事ではないというところを極端な取り方かもしれないですが、市で全く関与しないというような言い方ではなかったかと、ただいまの答弁受け取っていますが、要するに児童相談所を処理していく機関、具体的には児童相談所という形で建物になるわけですが、実際現在のところどこへ相談をもつていったらいいか、改めてどこへもつていったらいいかと考えてみますとどこだかわからないわけですよ。それだけに館山市民からこれらの問題を処理する、あるいは知恵を借りる児童相談所というものが遠いということが言えると思うんです。もつと手近なところに開かれる相談所ができないかという質問なんです。

単に、これは相談所に行くような子供ではないかと一喝してしまふにはあまりにも問題が、取り方としては軽薄過ぎると思います。単に子供が悪い子供だから相談に行くという、そういう一々暗いイメージではなくて、非常に児童の生活環境が多様化し、複雑化してきている現代にありましては、もつと手軽に相談ができる健全な明かるいイメージの相談室が私は必要だと思えます。これが悪くなつたから相談に行くのではなくて、その効果からいってもある程度の予防をする、道をただすということでも必要だと思います。

市の仕事ではないというような答弁の中に言葉もありましたけれども、児童相談所ができなければ児童相談室のもつそういう意義から、それは私たち市民が考えるときにもう少し温かみのある考え方が当局に欲しいように思います、それぞれいかが考えましようか。

それから、農業問題でございますが、農業用器具の貸し出し制度はできないかという問題であります。私は先ほどの質問で申し述べましたように、農業政策そのものの主軸を確立していただきたいというのが私の通告質問を貫いている趣旨でございますが、その枝葉として、たとえばこういうものができないかということ、質問したのは農薬用器具の貸し出し制度であります。これは農協で行っているという答弁がありましたし、この問題はここで質問としては打ち切ります。

それから、公害対策につきましては、答弁の方が早くて書き取れなかつたんですが、いわゆる対策事業ですか、計画されている対策事業あるようです。農業組合を結成して、組合を通じてこの事業をなさっていく。これについて規模はどのくらいの予算でどのくらいの仕事を、何名くらいの人が参加する仕事をやるうとしているのか。そのへんの御説明を願いたいと思います。

それから、農業後継者の確保、育成の問題でございますが、これは実に深刻な問題であると言えらると思えます。後継者を確保しよう、育成しようということだけでは部分的なとらえ方であるように思います。この問題は農業全体をとらえて魅力ある農業経営に改善して、一歩でも農業経営そのものを前進させていくということを考えなければならぬと思うんですが、農業労働に十分見合うだけの収入、魅力ある農業経営、それには個々の農家の思索とか努力が必要であります、行政面でのバックアップもこれまた必要であると思えますので、この魅力ある農業経営について市長にもしお考えがあれば述べていただきたいと思います。

以上。

○民生部長（鈴木 力君） お答え申し上げます。

最初に老人福祉対策についてですが、この四月から市役所の市民相談室の中に中高年齢者職業相談室を設けたわけでございます。これにつきましては県の公共職業安定所の窓口の延長という形で設置されておるわけでございます。それで、現在四月から今日までの利用状況でございますけれども、一応四月、五月につきましては大体四件乃至五件程度の利用があつた、こういうことでございます。

次に、館山市における老人人口は何パーセントかというお尋ねでございますが、六十歳以上をとりました場合におきましては九千九百七十七人でございまして、総人口に対する一七・二七％でございまして。

次に、老人コミュニティ関係でございますけれども、この問題につきましては現在各地におきましてコミュニティづくりが推進されておるわけでございますが、御承知のようにコミュニティにつきましましては地域住民の方々が連帯と主体のもとで快適に住みよい社会をつくるうというものでございます。この住みよい社会の条件として、欠くことのできないものとして地域福祉の分野があるわけでございまして、この推進が地域ぐるみの福祉の運動であるというふうに考えておるわけでございます。老人福祉にいたしましても自主的な住民参加とボランティア活動をみましてこの地域ぐるみ福祉の運動が積極的に行われるように念願しておるものでございまして、そこで市といたしましても具体的施策をいたしました市社会福祉協議会にいろいろボランティア活動をお願いして、現在もその活動が活発に行われているという状況でございまして。

でございます。

次に、老人と同居の増築資金の貸し付け制度でございますが、現在市の社会福祉協議会の業務といたしまして高齢者等居室増築資金の貸し付けを行つておるわけでございます。貸し付け限度額につきましては一件当たり五十万円でございます。特に認められた分につきましては七十万円ということでございます。償還につきましては六カ月据え置き後十カ年以内ということでございます。率につきましては年三％という低利で貸し付けを行つております。

それから、日常生活用具の給付でございますけれども、これにつきましては現在国の要綱がすでに定められておりまして、予算がございすれば給付はできるということでございますが、早速市といたしましてこの要綱を検討いたしまして、先ほど市長が答弁されましたように前向きな姿勢でもつて実施をいたしたいと考えております。

次に、青少年対策でございますが、インベーダーゲームの関係でございますけれども、現在市内にどの程度のものが扱われているかということにつきましては、警察等いろいろ調査したわけでございますけれども、その点何台設置されているか不明でございます。これから防犯協力会、あるいは青少年問題協議会等を通じて調査等をお願いをする予定でございます。

それから、シンナー遊びにつきまして接着剤等の販売に対する対策でございますが、販売の規制は全くないわけでございます。そんなことでございまして、今後防犯協力会、あるいは青少年団体等を通じて、また家庭の周知徹底を図りまして、これの

防止に努めたい。現在まで行政指導というものはいたしてありません。

それから、有害図書規制の問題でございますけれども、これにつきましては毎年千葉県青少年総合対策本部、あるいは市町村関係機関、団体等におきまして六月二十一日から七月二十日まで自動販売機有害図書追放推進月間といたしまして、青少年に対する有害図書を見せない、買わせない、売らないという「三ない運動」を通しまして積極的に行っております。市といたしまして今後関係団体を通してこれらの運動に対処したいと思っております。

それから、大変申しわけございませんが、先ほど答弁いたしました職業相談室の取り扱い件数でございますけれども、四月につきましては四件乃至五件と申しましたけれども、合計で六件でございます。求職数二カ月のトータルが四十件、求人数四十三件、就職数が六件、こういう状況でございます。

次に、児童相談所の開設の問題でございますけれども、この点につきましては市長から答弁がありましたように、県におきまして現在五カ所の設置がされておるわけでございまして、当館山市におきましては先般君津市内に設置されました君津児童相談所の当分の間利用を図つていきたいと思っております。

○経済部長（太田博雄君） 先ほどの畜産公害の点でございますけれども、畜産複合地域環境対策事業といたしまして五十四年度から二カ年継続で事業がなされるわけでございます。この事業主体は館山市農業畜産振興組合というものが設置されましたところが事業主体になるわけでございます。事業費につきましては標準事業費約一億。補助につきましては国が三分の一、県が六分の一、市

が六分の一、受益者三分の一ということになっております。

それから、組合の戸数でございますけれども、畜産農家九十三戸、耕種農家が七戸、計百名でございます。それと参加しないが堆肥だけをいただくという農家が五十三戸入っているわけでございます。

概要といたしましては以上のとおりでございます。

○市長（半沢良一君） 魅力ある農業についての考え方という御質問でございますが、大変むずかしい問題でございます。そのお答になるかどうかわかりませんが、私は農業といえども、米の生産といえどもこれは商品の生産であるというふうに考えているわけでございます。農業といふのはいわゆる先祖伝来からの家業といふものでなくて、事業であり、企業であり、経営でなければならぬと考えているわけでございます。その担い手である農家は、需要のないところに生産はないわけでございますから、需要がどこにあるかということ、その需要にこたえるためには館山市の場合どんなものをつくつたらよいかという自主的な判断といえますか、主体性を農家も持たなければいけないと考えているわけでございます。そういう意味で農家の自主性、創造性、先見性、そういうものが大変求められる、そういうものをもった経営者でなければいけないというふうに考えているわけでございます。同時に、また農業技術も大変進んでまいりますので、そうした新しい技術を導入できるようにそういう科学的な頭も持つていかなければならないのではないか。要するに私の考えていますことは、農家もつとつと主体的な経営者となるような努力と勉強をしていただきたい、そうすればおのずからこの資本主義社

会の中における農業の新しい道が見い出せるんじゃないかということを考えているわけでございまして、答弁になつたかどうかわかりませんが、私はそういう農家自体の自主性、主体性を農家に求めたいと考えているわけでございます。

それから、先ほど民生部長が答えましたところで、ちよつと重複するかもしれませんが、石井議員さんの御質問の児童相談所の件でございますが、私は児童福祉法の中に決められた児童相談所という意味で御答弁申し上げましたわけでございますが、石井議員のおっしゃるような意味でしたならば市にも家庭児童相談員が二名常駐しております。そこでいつでも相談に応ずるわけでございますし、相談がない場合には相談員のほうから積極的に各学校を回つて相談に応じているというのが実情でございます。

議長（石井 正君） 以上で二〇番議員石井武敏君の質問を終ります。

暫時休憩いたします。

午後二時 六分 休憩

午後二時四十三分 再開

議長（石井 正君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

一二番議員栗原一雄君。

（一二番議員栗原一雄君登壇） （拍手）

〇一二番（栗原一雄君） 六月定例会に通告のとおり大別して二点について一般行政に対する御質問を申し上げます。

初めに、第一点は産業基盤の整備促進についてでございます。

本市は一次産業、二次産業の分野における大きな就労場所が少なく、したがって市民の大半は三次産業である卸、小売り、サー

ビス業等に従事しており、生活の糧を求めているもので、そのような生き残るための努力が南房総における一大商業都市を形成し、発展を続けてまいりました。このような商業活動が地域の経済を支え、さらには地域社会の発展の先導的担い手となつて、起伏の多い社会環境の中で多彩な活動を展開し、それなりに重要な役割を果たしてきたものでございます。したがって市勢発展の大きな財源となり原動力となつてきたものと考えます。

さて、近年は消費生活の構造化に伴う流通革命という美名に隠れて、資金力のある大型店は歩調を合わせたようにここ数年大型スーパーの地方都市への進出がめざましく、これを迎える各地域の地元小売店は石油ショック以来の長期にわたる不況という悪条件に悩まされ、四苦八苦の厳しい生活を余儀なくせざるを得ない状況にあり、追い詰められているのが実情でございます。

このような状況の中で、本市においても大量販売店の進出は経営基盤の弱い既存の生業的専門小売り店の存立を脅かすものであり、特に国道、県道沿いに構成された本市の既存商店街はバス路線の幹線道路と併行しており、危険との背中合わせの状況で、安心して買い物のできる状態ではなく、将来にわたる商業活動に不安を抱くものでございます。このような問題を縫つて大資本による大量販売店の進出が行われた場合は、消費産業の独占化となり、死活問題に発展するおそれもあるかと存じます。現代は都市間の競争の時代であり大型店の必要性も認めるところですが、本市の現況では問題があり、したがって大型店と共存共栄のできる都市計画を積極的に行行政指導により行い、住民の安定した生活の確保のためにも産業の振興策は急務の課題であらうかと存じます。

す。

以上の点を踏まえ、特に昨年度策定されました地域商業振興計画についての進捗状況及び大型店の出店に対する将来の対応策についてどのようにお考えになられておられるかお尋ねいたします。次に、第二点、観光客の受け入れ態勢についてお尋ねいたします。

週休二日制が真剣に論議されている今日、本市は南房総国定公園の観光拠点都市としての玄関口で首都圏における日帰りコースとして気候風土に恵まれた南国海洋型観光地でございます。これはもとより郷土の自然景観が大きな魅力であろうかと存じます。幸い本市は首都圏の中に位置づけられており、観光客の供給源を保有しており、立地的にも極めて恵まれた場所でございます。

私が申し述べるまでもなく、御承知のとおり観光客の入り込み数の増減は観光地の魅力度の強さに比例し、遠近による到達距離により反比例するものとされております。昨年八月に発行されました館山市海浜開発診断報告書によりますと、海水浴客四九％、一般観光客一六％、遊園地客一五・五％となっており、市内の観光客の入り込み数の約半数が夏季の海水浴客に占められているわけでございます。

したがって、本市の観光の魅力は海浜にあるわけでございますが、海浜リゾートとしての受け入れ施設はほとんど皆無に近く、観光立市というものの自然資源の依存型で大きな発展を望むことは困難であろうと存じます。

なお、統計に基づく観光資源の鏡ヶ浦の汚れは、このままでは将来ますます生活雑排水により水質の汚濁が進み、海水浴場とし

ての魅力が低下していくものでございますが、海は市民の共有財産であり、本市にとつては自然観光資源の大きな財産で、保全のための努力とそれらを将来有機的に施設と連携させ、相互に影響させると同時に、周辺の漁業、酪農等にも好影響を波及させながら、連鎖反応的に発展させるような受け入れ態勢を整えるべきであろうと存じます。

開発とは近代施設との調和であり、空間の利用であろうと考えます。したがって、観光客に利便を与え、快適さを満喫していただくことがサービスであり、利用者の魅力度であろうと存じます。

以上を踏まえて、国鉄館山駅舎の西口の開設、内房線の複線化の促進、国道一二七号線のバイパスの見通し及び海浜公園化構想の実現化について、どのようなお考えをお持ちになつておられるかお尋ねいたします。

(市長半沢良一君登壇)

○市長(半沢良一君) 栗原議員の御質問にお答えをいたします。

第一点は、産業基盤の整備促進についてという大変広範な御質問でございますけれども、お説のとおり本市の経済が中小企業、特に小規模事業が大きな担い手であることはお説のとおりでありまして、そうした中小企業、小規模事業の振興を図ることが市の行います経済施策の基本にならなければならないと考えております。昨年商工会議所が事業主体となつて行われました地域商業振興計画策定ができ上がりました、本市の商業立地条件、今後の方向等についてそこで提言をされているわけでございますので、本年度はその計画の内容の分析、検討を行い、本市地域商業振興の

手がかりとしていきたいというふうに考えているわけでございます。

そこで取り上げられておりますように、商店街が現在の厳しい経済環境の中で今後とも健全な発展を遂げていくためには、従来にもまして経営の近代化等、経営基盤の強化を図ることが必要であるわけでございます。現在の商店街、特に駅前を中心とした商店街は御案内のように通路が極めて狭く、店舗形態、あるいは商店街環境等、改善を図らなければならない点がたくさんあるわけでございます。このような問題を解決するにつきまして、基本的な取り組み方として事業経営者が自発的な発想のもとに対処することがいま考えられているところでございます。今後とも商工会議所または商店会連合会等を軸としまして近代化への道を進めていきたいと考えているわけでございます。

大型店出店の問題につきましては、消費者の利益を保護するよう配慮しながら、大型店の出店を調整する法律措置ができ上がったわけでございますので、商工業の総合的な改善発達を図ることを目的といたします商工会議所と密接な連絡をとりながら、商工業の振興を図っていきたいと考えているわけでございます。

大きな第二点、観光客の受け入れ態勢でございますが、お説のとおり本市は海洋リゾートタウンとして位置づけられているわけでございますので、巨大なレクリエーション活動の需要市場である首都圏の中にあつて、立地条件的には極めて恵まれているわけでございますが、通年型、長期滞在型のとり入れに努めまして、観光資源の維持、または発掘にあたり、自然の恵まれた美に人工的な要素を加え、受け入れ態勢を整備していききたいと考えています。

わけでございます。

館山駅の西口開設につきましては、すでに駅舎建設の期成のため、準備のための会が結成されておりまして、それを早期実現するという運動も起きたわけでございますが、この件につきましては内房線の複線化との関連もございまして、いま基本的に館山市の都市再開発を考えておりますので、そうした中で取り上げていきたいというふうに考えております。

国鉄内房線の複線化につきましては、昨年七月その促進のための期成同盟が知事を会長とし、千葉県及び沿線七市五町一村をもつて組織され、関係機関への働きかけを実施しているところでございます。その間国鉄関係者が内房線は複線化の必要性の高い路線と判断しているというふうな感触を得ているわけでございまして、今年度主要事業として内房全線複線化を最終目標にしながら、当面君津館山間の複線化計画の樹立を促進し、その早期実現を図ることを目指していま運動を展開しているところでございます。

国道一二七号バイパス建設の促進につきましては、沿線地域住民の強い要望であり、関係市町村においてもその早期実現を関係機関に働きかけているわけでございます。前年度におきまして正木の県営ほ場整備地内の一部買収が実施されておりまして、本年も引き続き買収が行われる予定になつております。

そうした種々の施策を行いながら、昨行われまして海浜開発診断に基づきまして、海の自然保護と今後予想される多彩なレクリエーション活動需要の伸びに対応すること、それから通年型、長期滞在型指向に対応する諸施設の整備を基本方針にする、そういったような考え方から海浜公園都市構想を推し進めていきたい。

具体的な検討を今後——館山市再開発を検討いたしておりますし、また新広域圏の見直し等も行われておりますので、そうした諸計画の中でその実現を図っていきたいというふうに考えているわけでございます。

〇二番（栗原一雄君） この問題は双方とも同じでございます。

いずれにいたしましても商業、産業基盤の整備は本市の財政基盤との関係から申しても極めて重要な課題であろうかと存じます。去る五月末をもつて昭和五十三年度の出納閉鎖をいたしたわけでございますが、前年度は九七・八七％の収納率に對しまして本年度は九七・三四％、したがって〇・五三％の落ち込みとなっておりますわけでございます。そのような数字から見えてまいりましても極めて苦しい市民のふところぐあいではなからうかと考えるわけでございます。

最初に申し上げましたように、一次産業、あるいは二次産業をはじめあまり所得を得る場所がなく、したがって若い働きざかりの生産者である年齢層が市外に流出をいたしております。本市の人口構成から見ても昭和五十四年度におきましては六十歳以上が一七・六％を占めており、全国平均は一一・七％、六十五歳以上が一・二・六％、全国平均は七・九％となつております。そのような人口構成から申し上げましても働く場所が少ない、このような判断ができるわけでございます。

角度を変えまして人口構成を見てまいりますと、七十歳以上医療給付を受ける、無料化となる高齢者は年間百二十人乃至百三十人の多きにわたるわけで、現状の産業構造の基盤を整備しなければ将来にわたり百年の大計に悔いを残すと考えられます。

以上の観点から、今日まで専門家を招聘して、あるいは経費をかけまして、館山市の未来像についてのビジョンを掲げまして市民に夢を与えてくれました昭和四十二年の長期振興計画の策定、あるいは昭和四十九年の館山市総合計画の策定、昭和五十二年度の館山市の広域商業診断報告書、昭和五十三年館山市海浜開発診断報告書、またただいま申しましたように地域商業振興計画によります商店街の近代化、いろいろな施策が今日まで施されてまいりましたが、実際にどのように消化しているか。また消化しないもの——確かに一部についてはそのようにいたしたものでございますが、まだしてないものもたくさんあるうかと思えます。したがっていましてそれをどのように消化するかどうか、具体的にそういった問題を検討したか、このようなことをお尋ね申し上げたいと思います。

まず幾らよいものを、お金をかけても、実際にそれを消化し、また将来の可能性の検討をしていただかなければ何にもならない、このように考えますので、そういった施策についてどのように具現化について検討を加えてきたかお尋ねいたしたいと思えます。市長公室長（汐崎政光君） まことに厳しい御質問を受けまして恐縮しております。

四十二年の総合計画以来、いろいろな専門家による診断、調査そういったものがなされてきております。それらの成果についてのお問い合わせでございますが、部分的には四十九年市の実施しました総合計画の中からただいまの海岸通りのヤシ並木、それから渚銀座、平砂浦のフラワールイン、そういったものが実現してきておるわけでございますが、これらを総括しましてどういった

ふうな実施の率を示すからとつと私も検討しておりませんが、今後そういつたところに目を向けて検討していただきたい、このように考えます。

現在まで手がけました調査、そういつたものにつきましては、現実の市の実態の中で可能性のもてるもの、もてないもの、そういつたものを現実役所、行政の中で検討していただき、つとめてどのように実施していくか具体的な案を今後真剣に検討させていただきたい、そのように考えます。

○一二番(栗原一雄君) 一般行政でございますので、ただいま申し上げましたようなものを消化していただければ、私は具体的なこまかい問題を申し上げる必要はないと思います。

さて、観光客の受け入れ態勢の整備でございますが、特にいま問題となつております石油の問題、まことに不幸か幸いかわかりませんが、車のガソリンが不足するであろう、夏以降は特に不足するとうようなことが論議されておるわけでございます。したがって一七号線バイパスの必要性——これがないために実際には千葉県の袋小路的な立地にあるわけでございます。外房はほとんどやはり受け入れ態勢が整つております。したがってそれに見合うお客さまが入つてまいります。

経済の原則は需給のバランスであろう、このように考えます。やはり館山市はそれだけの魅力がないために、先ほど申し上げたように、資料から見えてまいりますと、夏季観光である、このように申し上げても間違いございません。

けさ昨年度の館山市の観光客の入込み数について手元に資料を取つてみたわけでございますが、年々減つてきております。条

件的には極めていい条件がありながらそれができない、これは何か欠点があるからそういう現象が起きるわけでございます。

館山市の青年会議所がちょうど二年前に、市民の地域社会に対する要望についての確な把握をしようということで、千三名を対象にしまして市民の総合アンケートの実施をいたしました。

その調査結果を小冊子にまとめまして発行されたのですが、その内容の中に、館山駅西口の開設が問題となつております。館山駅西口をどう思いますかとの設問に対して、約七〇%の方々が西口の開設を望んでおります。そのグラフにより職業別を見てまいりますと、公務員、会社員の人は設問に積極的であり、農、漁業の人はわからないと答えている方が多うございます。地域別に見てまいりますと豊房、神余方面に関心が極めて薄いようなグラフです。

そのようなアンケート調査に従つて、開設の必要性がうかがえるわけですが、私も昭和四十七年三月議会以来数度にわたりました西口の開設、橋上駅舎の開設、そういつた問題を具体的にお願いしてまいりました。西口の開設によりまして、いわゆる一七八号線国道上にあります商店街の車の量を減らすこと、そういつた作業をしていかなければ現在の館山市の商店街の生きる道はないであろう、このように考えております。

なお、西口を開設することによりまして、一般の送迎用の車両については西口に回すことによつて、やはり商店街それなりに生きてくるわけでございます。現在バス路線と並行いたしまして商店街が構成されております関係で、たとえばいまの時代の一つの要求と申しますか、歩行者天国、あるいは商店街活動をしよう

といつてもすべて規制されてしまっています。そういうのもできません。また西口の開設によりまして、水産高校あるいは安房女子高といった人たちが危険な踏み切りを通らなくても即座に学校に行ける。そういうように西口が——館山市の大きな観光財源である鏡ヶ浦ということを考えてまいりたい。当然西口の開設は内房線におきましては——館山市ぐらいいです。海に背中を向けております改札口は。

そういう意味から考えましても、いまだ積極的な開設に対する努力がやはり行政的には必要ではなからうか。もちろん何をやるにしても上部機関であります県、国、そういうたつたことがなければ何もできないわけでございますが、そういうたつたことで積極的に、何々委員会ができたからいいんだということではなくて、やはり積極的に行政的な指導をしてもらわなければ、なかなか一般的な市民ではできないのではないか、このように考えます。

さて、その西口の問題につきまして過去数次にわたりまして御質問いたしておりますが、国鉄関係と申し上げましょうか、千葉の管理局、あるいはまた上部団体に積極的に運動をしたことは過去あるかどうか。すでに新聞等によりますと、外房線は鴨川まで復線化される。電化は内房線が早く、しかし急速的に外房がクローズアップしてくる、このような状況から申し上げますが、その努力が不足しているのではないかとこのように考えますが、そのように積極的な運動を展開されたかどうか、その点についてお尋ねいたしたいと思います。

○市長（半沢良一君） 西口の開設の件につきましては、確かに青年会議所のアンケート調査によりまして、必要であるという考え

方をもっている方も大変多いようでございますけれども、ただやはり既存の商店街のいろいろな関係もございまして、必ずしもその調査が全市民的なものであるかどうか、あるいは全市民的なものであつたにしても利害関係が伴うものでございしますので、積極的にそれをすぐに進めるのはどうかということでございます。

従来にも駅舎の改築ということでは陳情をいたしたこともございますけれども、西口開設ということではございません。やはりこれは長い目で見て、館山市の都市の、特に駅を中心にした市街地のあり方というものをもう一度検討した上で行動すべきだというふうに考えております。

そういうことで、いま都市の再開発ということを考えております。そうした計画の立案をまちまして積極的な運動をいたしたいというふうに考えております。

○一二番（栗原一雄君） 市長さんの言われることはよく理解もできます。しかしながら、だんだん年度が進むほどこういった問題はむずかしくなつてまいりますので、ひとつ積極的に再開発を御検討いただきたいと思います。

さて、観光客の受け入れ態勢という問題につきまして、もう一つ考えられることは、昭和五十三年度に使いました水道の年間使用量は三百三十二万四千三百五十一立方メートルとなつております。さらには家庭用水を使用されている家庭の雑排水、そういったものがすべて何かの形で汚れるわけでございます。そのように生活環境を悪化させる汚水となつておりますし、また生活様式の近代化に伴ひまして水洗化の普及により家庭雑排水が増大し、排水溝を通つて河川、さらには海に流入するわけでございます。

したがいはして、都市の基本施設である下水道をはじめ終末処理場の設置についても欠くことのできない観光客の受け入れ態勢であらうかと存じます。そのような環境の整備が市民の共有財産である海及び海浜の保全となろうと考えます。公共下水道事業は急務の問題として検討すべきであらうと存じます。したがいはして現在建設省によります年次五カ年計画に合わせてこのような問題を将来の課題として検討されてこられたかどうかお尋ねしたいと思います。

○市長（半沢良一君） 公共下水道の必要性につきましては御指摘のとおりでございます。市といたしましても十分この点については考えているところでございますが、何ぶんにもし尿処理場——当然家庭のし尿の処理も公共下水道に入るわけでございますが、し尿処理場の建設が急務でございましたので、これを建設したのちに公共下水道の建設に取りかかりたい、そのように考えているわけでございます。いまは第五次五カ年計画の中に一応取り入れていただいておりますけれども、早急に、いますぐこれをというわけにはまいりません状況ですが、いずれにいたしましても必要性については十分考えておりますので、し尿処理場の建設が終了しました段階で早急にひとつかかりたいと考えているところでございます。

○二番（栗原一雄君） 先ほど申し上げましたように、昭和四十二年の長期振興計画の策定が行われまして、今日まで教回にわたりにましていろいろな調査が行われております。また報告書も提出されております。どうか、したがいはして先般の会合でしたか、市長はハードウェアについては責任を持つと、ソフトの部分につ

いては皆さんが。そういうことでございますので、積極的にハードの面について行政的に、大いに町の発展のために御尽力いただきたい。

以上をもちまして、質問を終わります。

○議長（石井 正君） 以上で通告者による一般質問を終わります。

散

会 午後三時十八分散会

○議長（石井 正君） 本日の会議はこれにて散会いたします。

次会は明六月二十一日午前十時開会とし、その議事は各議案の審議といたします。

○本日の会議に付した事件

一、行政一般通告質問

